

ALUMNI NEWS

INTERNATIONAL
CHRISTIAN UNIVERSITY

ICU ALUMNI
ASSOCIATION
3-10-2, Osawa
Mitaka-shi, Tokyo 181-8585

TEL&FAX : 0422 33 3320
<http://www.icualumni.com/>
E-mail : aaoffice@icualumni.com



ALUMNI NEWS
VOL.122 OCT.2014

特集 和とICU

湯浅八郎記念館 : p.02

スティール先生インタビュー : p.10

新会長・副会長紹介 : p.16



特集 和とICU

来テ知リソ! 湯浅八郎記念館

——ユアサ探訪! 「外」から見れば、「内」が見えてくる! ——

学生たちに「ユアサ」と呼ばれて親しまれている建物の正式名称は「国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館」といいます。「国際」と名のつく大学にどうして民芸品を集めた博物館があるのでしょうか。そもそも湯浅八郎さんってどんな人?ハンガリー人の大学院生・ソフィーさんが、学芸員の原さんと福野さんに話を伺いました。

文・野仲 裕子(本誌) 写真・一之瀬ちひろ(本誌)

明治時代にアメリカに渡り、帰国後、民芸に目覚めコレクションを始めた、ICU初代総長(注1)の湯浅八郎博士。一方、ハンガリーからやってきて、現在大学院で日本文化の研究をしている2年生のソフィーさん。国や立場は違えども、日本の外側から「和」を再発見するということでは同じかもしれません。そんなソフィーさんと巡る、ユアサ再発見ツアー。

湯浅先生のこと

ソフィー: 現在の展示について教えてくださいませんか。

福野: 「描かれた器」という展覧会をやっています。(取材時・こちらは7月4日に終了) 湯浅八郎記念館では年に3回、収蔵品をもとに色々な切り口で特別展を行っています。今回は陶磁器のコレクションの中から、手描きで文様を施した作品を130点ほど選び展示しています。この中でも特に大きく取り上げたのは、湯浅先生の最初のコレクションである「馬の目皿」(愛知県・瀬戸)です。湯浅先生はあるときご自身で2,000種類もの印判手の陶磁器を集めようと決められ、その詳細を「コレクション・ノート」に書き留めました。通し番号、詳細な絵柄のスケッチ、柄、購入場所、価格などが記されているのですが、今回は冒頭のセクションでこのノートとともに、そこに掲載されている中から手描きのものを選び一緒に展示しました。

原: 湯浅先生のコレクションは、全てポケットマネーからお出しになって収集されたものと伺っています。お酒もタバコも嗜まれなかったのが、講演や原稿などの謝礼は民芸品を購入するためにお使いになられていたとのことですか。

ソフィー: 湯浅八郎さんとはどういうかたで、どのような経緯でこちらに博物館ができたのでしょうか。

原: 湯浅先生は、18歳で少年移民としてアメリカに渡り、カリフォルニアの果樹園で働いた後、現地で大学、大学院と進み昆虫学で博士号を取得されました。34歳で帰国後、京都帝国大学(現・京都大学)教授として教鞭を執られていました。その後同志社大学の総長を2度務められました。1953年にICUが献学されると初代総

長に就任、その後、名誉総長、理事長を歴任され、1981年に亡くなられる直前に、7,000点ものご自身の民芸品のコレクションをICUにご寄贈くださいました。湯浅八郎記念館は1982年に献学25周年記念事業として、先生のコレクションおよび大学構内出土の考古学資料を展示するための施設として設立されたのです。建築は、その当時博物館や美術館を多く手がけられていた前川國男(注2)建築設計事務所をお願いしました。

見テ知リソ 知リテナ見ソ

ソフィー: 湯浅先生はアメリカに行っていたからこそ、日本の民芸に目を向けるようになったのではないのでしょうか。

原: そうですね。湯浅先生は10代という早い時期に日本を離れたことで、自分には日本人として何か足りないものがあるのではないかと常々考えられていたようです。日本に戻られてからは、なんとかしてご自身の専門以外で日本人らしい教養や趣味が欲しいと思われていたそうです。ある日、京都で民芸運動の父といわれる柳宗悦氏(注3)の「日本民藝品展」(1929年)を見たときに、全身が燃え上がるほど興奮して、「これだ!」とすぐに会場から飛び出して、その足で作品を買いに行かれたそうです。それが今回展示してある先生のコレクション第一号の「馬の目皿」です。柳宗悦氏の言葉で、「見テ知リソ、知リテナ見ソ」というものがあるのですが、「まずは自分の目で見て理解しなさい」「じかにものを見て、そこにある美を直感しなさい」という意味です。その作品がどの時代に誰によって作られたのかといった知識の類は後でいい。それを見て自分がどう思うのか。その感性を磨きなさいということですね。湯浅先生はこの言葉を「民芸道の哲学」とおっしゃっています。このことを伝えるために、先生は一度だけICUで「民芸の心」という授業をされたことがあります。1978年のことです。20人ほどの小規模な授業で、全部で5回の講義でした。同時に先生のコレクションを教育研究棟に展示して、みんなが鑑賞できるようにしたのです。私はその授業の助手を務めていたのですが、非常に貴重な経験でした。のちに講義録(注4)も刊行されています。



ソフィー: 湯浅先生のコレクションは全てこちらにあるのですか?

原: ほとんどこちらの収蔵庫で保管しています。ただし資料室にある蕎麦猪口のコレクションは全体の1/3(壁面のガラスケース一面に何百も並んで展示されている)、あとの1/3は京都民芸資料館に寄贈され、残りの1/3は今でもご遺族が使われています。

ソフィー: ご家族が実際に使っているのですか?

原: そうだと思います。上に展示してあるものもそうですが、湯浅先生のコレクションのほとんどは先生が実際に使われていたものです。作品を預かりに何度か先生のご自宅に伺ったことがあるのですが、そのときは大きな染付の鉢にチャーハンが盛られて出てきました(笑)。普通は博物館の作

品は、なかなか触ることはできませんよね。でも、私たちの館では手で触れてみるのできる展示をする場合もあります。それが先生のご意思でしたから。作品の保護という点で全てというわけにはなかなかないのですが、願わくば、ガラスケース越しに見るだけではなく触っていただきたいと思っています。Blind Studentのかたがいらした時には触っていただいたりもします。あと学芸員課程の実習生には展示の設営にも参加してもらい、作品に実際に触れながら作業をしてもらっています。

悲願の学芸員課程

ソフィー: 学芸員課程を私も取りたいと思っています。

原: そう言っていていただけてうれしいです。ICUに学芸員課程ができたのは2004年の



ことです。これは本当に私たちの悲願でした。私も福野も別の大学で学芸員の資格を取ったので、ICUに学芸員課程ができてほしいという思いはとても強く、大西直樹先生（当時・人文科学科学科長）のご尽力もありやっと開設に漕ぎ着けることができま

した。現在は、授業は私たちのほかに外部から専門家を招き、実習は私たちふたりが受け持っています。

福野：年間の登録者数としては30名程度でしょうか。年に3回ある特別展のうち、2回の展示替えに合わせて実習を行ってい

ます。実際に作品に触れて、展示することの意義を感じていただけるといいなと思っています。博物館が学内にあるのは環境として素晴らしいことです。実習は8日間ですが、展示の細かい仕上げは実習後に我々学芸員が行い、展覧会が始まると来館者に

向けたギャラリーツアーを課題のひとつとして実習生にやってもらいます。

原：今までに190名が学芸員課程を修了したのですが、そのうち20名ほどが、現在、各地の美術館や博物館に勤務していて、中には学芸員として活躍している人もいます。



詳細につけられたコレクション・ノート



湯浅コレクション第一号の馬の目皿



何百もの蕎麦猪口が壁一面に並ぶ。これも湯浅氏のコレクション



よみがえる布

ソフィー：私は小袖を研究しているので、次回の展示もすごく興味があります。

原：今回は「よみがえる布 寄裂・裂織」という展示を予定しています。（開催中・9月9日から11月14日まで）年に3回の展示は我々学芸員の間で、1年を通してテーマのバランスがよくなるように決めています。今年度でいえば、今回は器（陶磁器）、次回は染織（布）、その次は木工（漆）です。次回の展示はいわゆる「recycled fabrics」についてです。寄裂（よせぎれ）というのは、欧米でいうところのパッチワーク。裂織（さきおり）というのは、古布を裂いて帯状にしたものを機織りで織りあげたものです。両方とも、いわゆる布の再利用ですが、それ以外にも、例えば我が子が健やかに育つようにと、元気な子供や長生きのお年寄りの着物から布を譲り受け、それを集めて着物を作るという特別な思いが込められたものもあります。着物をはじめとして、襦袢やこたつ掛け、お坊さんの

袈裟なども展示されます。この袈裟も檀家の方々が布を持ち寄って、裏にそれぞれの名前を書いて縫い合わせたものです。「リサイクル」という言葉をあえて使いましたが、本来であれば最後まで使うのがあたり前なのですね。

ソフィー：ハンガリーから見ると日本はすごく消費社会に見えます。1989年に共産主義が終わってからは、ハンガリーにもアメリカの影響があって消費文化が入ってきましたが、日本人に比べて、ハンガリー人はものをより大切にしているのではないかと思います。日本の人も、ものを大切にしていた昔の考えを見直すといいなと思います。

原：日本は良い意味でも悪い意味でもアメリカの影響を受けてきていますよね。ヨーロッパを旅すると、古い建物が大切に残されているなと思います。その一方で、日本に帰ってくると、日本はいつからこんな消費社会になってしまったのだろうと、考えてしまいますね。

ソフィー：私はお茶を習っているのですが、たまに自分で着物を着ることもあります。

若い日本人の着物についての考え方はどう思いますか？ 今では、浴衣を自分で着られる人も珍しいですね。

原：せっかくの自国の文化なので興味を持ってもらえると良いのですが。学芸員実習で着物のたたみ方を教えるのですが、学生たちはその時に初めて着物というものがいかに機能的な構造なのか気づくようです。あんな大きな布が、順番にたたむと引き出しに収まる訳ですから。また、留学などで海外に行ったときに、外国のかたに日本について聞かれ、帰ってから改めて学び直そうとする人もいますよね。

ソフィー：そうですね。確かに私も日本に来てからハンガリーに誇りを持つようになりました。

原：ソフィーさんは、ハンガリーの民族衣装は持っていらないの？

ソフィー：ハンガリーの民族衣装というのは地方によって多少違いますが、中でも有名なのは白い布にお花などの刺繍がたくさん施されたものだと思います。私も小さい頃村のお祭りでは地元の衣装を着ていまし

たが、今は観光客向けの値段が高いものが多いです。どの国も聞いていると同じような状況なのですね。

原：次の展覧会で、ものを大切にする日本人の心が伝わるといいなと思っています。展示が始まったらまた見に来てくださいね。

ソフィー：ぜひ、観に行きたいと思います！

注1：現在は初代学長とされているが、当時の呼称に倣いここでは総長に統一する。

注2：前川國男（1905—1986年）建築家。ル・コルビジェやレーモンドの下で学び、モダニズム建築を多く手がける。主な作品に東京都美術館、東京文化会館、紀伊國屋書店新宿本店などがある。

注3：柳宗悦（1889—1961年）思想家、美学者。民芸運動の父として知られる。1936年目黒区駒場に日本民藝館を設立。プロダクトデザイナーの柳宗理は長男。

注4：『民芸の心』 湯浅八郎・述 田中文雄・編 国際基督教大学 1978年（復刊：湯浅八郎記念館 1982年）



「描かれた器」展展示風景



角行灯、行灯皿など



学芸員課程をとっている学生さんたち。左から原山さん、天野くん、大尾さん、高瀬さん

(左)
ウィハーズィ・ジョーフィア (ソフィーさん)
UJHAZY, Zsafia (G2015)
大学院2年生。専攻は比較文化研究。ハンガリーの大学で3年間日本の文学、言語学、社会と歴史を勉強し、来日。ICUで文部科学省研究留学生として2年間過ごした後、博士過程に進む。研究のテーマは、小袖から見る江戸時代の町人文化。本名が発音しにくいので「ソフィー」という愛称を考えた。ちなみにハンガリーでは日本と同じく姓、名の順で表記する。

(中)
原 礼子
HARA, Reiko (20 ID76)
湯浅八郎記念館エキスパート・学芸員。人文科学科卒。立教大学で学芸員課程修了。1978年より人文科学科(美術・考古学)の非常勤助手として湯浅記念館の開館準備に携わり、1982年から学芸員として勤務。湯浅先生の授業「民芸の心」にアシスタントとして関わる。

(右)
福野 明子
FUKUNO, Akiko (28 ID84 G1986)
湯浅八郎記念館館長代理・学芸員。人文科学科卒。大学院では比較文化を専攻し、学芸員資格は大学院修了後、仏教大学の通信教育課程で取得。1987年から湯浅記念館に学芸員として勤務。館で開催される展覧会のポスターデザインを全て手がけており、そのデザインにはファンが多い。



モット知リソ! 年齢順にみる湯浅先生プロフィール

【湯浅八郎氏年表】

- | | |
|-------|--|
| 1890年 | 東京・赤坂に生まれる |
| 1908年 | 18歳 同志社普通学校卒業後、渡米。カリフォルニアの果樹園で働く |
| 1911年 | 21歳 カンサス州立農業大学に入学し、昆虫学を専攻 |
| 1916年 | 26歳 イリノイ大学大学院に進学 |
| 1920年 | 30歳 同大学から博士号を得る |
| 1924年 | 34歳 帰国し、京都帝国大学教授となり、農学部昆虫学講座を開く |
| 1929年 | 39歳 京都で日本民藝品展が開かれ、この展覧会を見たことが機縁となり、民芸品の収集をはじめる |
| 1935年 | 45歳 同志社第十代総長に就任 |
| 1939年 | 49歳 渡米中に日米開戦。1946年までアメリカに滞留 |
| 1947年 | 57歳 同志社第十二代総長として再任。京都民芸協会創立に参加 |
| 1949年 | 59歳 国際基督教大学総長に選ばれ、創立準備に専念 |
| 1953年 | 63歳 国際基督教大学献学。初代総長に就任 |
| 1961年 | 71歳 総長を退任、名誉総長となる |
| 1962年 | 72歳 国際基督教大学理事長に就任 |
| 1971年 | 81歳 京都民芸協会会長に就任 |
| 1978年 | 88歳 国際基督教大学で「民芸の心」を講義 |
| 1981年 | 91歳 国際基督教大学に民芸品コレクション約7,000点を寄贈。8月15日、京都の自宅で永眠 |



「民芸の心」の講義で学生を前に話す湯浅先生

2014年9月9日～11月14日

よみがえる布
寄裂・裂織

THE BEAUTY OF JAPANESE RECYCLED FABRICS

第99回公開講座「よみがえる布」 講師：佐治 ゆかり氏 郡山市立美術館館長
2014年10月4日(土) 14:00～15:30 当館エントランス・ホールにて 聴講無料・要予約

99th Open Lecture: "Revival of Fabrics" Lecturer: Ms. Yukari Saji, Director of the Koriyama City Museum of Art
Place: Museum Entrance Hall Date/Time: October 4, 2014 / 14:00 - 15:30 Admission Free. Lecture will be in Japanese. Reservation is requested.

国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館
ICU HACHIRO YUASA MEMORIAL MUSEUM

http://subsite.icu.ac.jp/yuasa_museum/ ◆ e-mail: museum-office@icu.ac.jp ◆ ☎ 0422-33-3340
〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2 交通：JR中央線三鷹駅／武蔵境駅南口より小田急バス「ICU行」終点下車（武蔵境駅南口よりタクシー10分）
開館時間：10:00～17:00（土曜日は16:30まで）日曜・月曜・祝日は休館 ◆ 入館無料

行ッテ知リソ! 「よみがえる布 寄裂・裂織」展

【展覧会案内】

- 展覧会名：「よみがえる布—寄裂（よせぎれ）・裂織（さきおり）」
The Beauty of Japanese Recycled Fabrics
会期：2014年9月9日（火）— 2014年11月14日（金）
展示資料：長着・仕事着/子供着物/襦袢・胴着/夜具地・
炬燵掛け/袷袷・打敷・寄裂袋など 約60点
開館時間：火曜～金曜 10:00～17:00
土曜 10:00～16:30
休館日：日曜、月曜、祝日
入館料：無料
交通：JR中央線三鷹駅および武蔵境駅南口より小田急バス「ICU行」にて終点下車
または武蔵境駅南口よりタクシーで10分
公開講座：演題 「よみがえる布」
講師 佐治ゆかり氏（郡山市立美術館館長）
日時 2014年10月4日（土）14:00 - 15:30
場所 湯浅八郎記念館エントランスホール 無料 予約制
問い合わせ：国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館
〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2
TEL:0422-33-3340 / FAX:0422-33-3485（担当 原 礼子）

A Interview

岩本清商店 内田健介・岩本歩弓(ともに42 ID98)

文・野仲裕子(本誌) 写真・一之瀬ちひろ(本誌)



伝統工芸を継ぐ

「金沢の桐工芸というのは、桐の木を削って形を整えた後に一度焼くので、このような色になるんですよ。」と深いこげ茶色のトレーを見せながら話してくださったのは、岩本清商店の桐工芸職人・内田健介さん。バーナーで焼く際、そのまま火を当てると木が燃えてしまうので、少しずつ息を吹きかけながら根気よく焼いていくのだという。一部には蒔絵を施して、トレーやコースターなどにしていく。

内田さんは2004年、パートナーの岩本歩弓さんと、これまで住んでいた東京を離れ、岩本さんのご実家である岩本清商店で桐工芸職人として働き始めた。岩本清商店は1913年の創業で、当時は桐火鉢を専門に作っていた工場だった。現在は四代目の岩本さんのお父さん・岩本清史郎さんが継いでいる。「絶滅寸前の桐工芸を前に、なにかできるかもしれないと思い立ち、実家

に帰ることにしました。ダメだったらまた考えればいいや、という軽い気持ちでしたね」と岩本さん。岩本さんが小さい頃は、実家の隣にあった工場には危ないからという理由で入れてもらえず、自分の実家が何を作っているのか、戻るまで知らなかったという。「それまで、自分の家は桐筆筒を作っているんだと思っていて。周りの人にも実家が桐筆筒を作っていてそこに帰るんです、なんて言っていましたから。(笑)」職人離れが叫ばれている伝統工芸の世界。彼女のお父さんは常々こう言っていたという。「桐を育てる人も減ってきた。付き合いのある材料屋もこの代で最後かもしれない。ここも自分の代で終わりでいい。」

岩本さんはICUを卒業後、企業で1年間働き、その後出版社のリトルモアに転職。「小さな出版社だったので、ほとんど広告を打つことができなくて、刊行前のダミーを持って、新聞社や雑誌編集部をまわったりもしていました。その頃の実家は職人さ

んたちの高齢化などもあって、とても細々とやっていました。自分が仕事でやっているように、お金がなくても桐工芸を宣伝することはできるのではないかなと、漠然と思っていました。」現在岩本さんは家業を手伝う傍らで、地元や東京などで金沢に関わる様々なイベントを行ったり、地元商店の新商品のパッケージデザインの相談を受けたりしている。2006年には、金沢に暮らす人やそこに息づいたお店を集め編集した『乙女の金沢』を上梓し、2012年には新版も発行された。

ICUで過ごした時間

内田さんは神奈川県茅ヶ崎市出身。高校までは理系だったが、浪人中、友人に「お前にぴったりの大学があるぞ」と言われ、それがICUだった。「入試の時に初めてキャンパスに行ったんですよ。驚きましたね。なんだかすごいところに来ちゃったぞって。(笑)」大学では美術部の部長を務め、主に

陶芸をやっていたという。「D館の奥に陶芸部屋があって、ろくろと電気釜がありました。そこで作品を作って、ICU祭で展示したりしていましたね。あまり真面目には活動していませんでしたが。(笑)」

同じ頃、岩本さんも高校の英語の先生の勧めで、ICUを受験する。「語学に興味があったということもあるのですが、学生たちが芝生の上で談笑している“あの”写真を見てしまって(笑)。でもICUは私立だし学費も高いから、本当は外大に行くつもりだったんです……。」在学中は語学科でフランス語を専攻した。「部活は特にやっていませんでしたが、第一女子寮だったので、それが部活みたいなものでした。(笑) 当時は携帯電話なんてなかったから、電話番号の子がいて、『○○さん、電話です』って取り次いでくれるのですが、『○○さん、お電話です』になると、男の子からだったという決まりのようなものがありましたね。これでみんなに知られちゃいますけ

「ICUを出て伝統工芸の職人になった人がいるよ」

そう聞いて、新幹線で一路金沢へ。

金沢の下町に佇む実家と工場（こうば）がつながった大きなお宅には、3世代家族の生活と、4代続く桐工芸が同居していました。



（左上から）バーナーの火を吹き付けながらこげ色をつけてゆく、工場に併設されたお店、店内には人気商品「ちょこっとトレイ」などが並ぶ
（左下から）年季の入った道具が並ぶ工場、歩弓さんと長女のみなもちゃん、工場と実家に囲まれた中庭

ど。(笑) 選り合ったわけではない人たちと一緒に暮らすことは、今思えば得がたい経験でした。その頃の寮の友人たちには今でも連絡を取り合っていますよ。」学生時代、ふたりは友人として大学で顔を合わせていた程度だったが、卒業後、友人宅で再会し、しばらくして一緒に生活を始めることになる。

親子三代で働く・暮らす

冬馬くん（4歳）と、みなもちゃん（2歳）というふたりのお子さんにも恵まれ、実家の近くにある自宅と職場兼実家を行き来する日々だという。朝は自宅で、昼食と夕飯は実家で家族みんなで食べる。「息子は、ヴォーリズ（ウィリアム・メレル・ヴォーリズ）の設計したキリスト教系の幼稚園に通っています。粗食でのびのびと遊ばせてくれる教育方針がいいなと思って。え？ヴォーリズってICUの教会を建築した人なんですか！なんだかすごいご縁ですね。(笑)」下のお嬢さんも、内田さんと岩本さんが働くお店と工場と実家を縦横無尽に駆け回り、そのそばにはいつも家族の笑顔がある。同じ時期に東京から金沢に戻ってきた岩本さんの弟さんも工場と一緒に働いている。内田さんが、息子の冬馬くん

に、「大きくなったらなにをしたいの？」と聞くと、「こうば（工場）ではたらきたい！」という答えが返ってきたという。来年、創業から100周年を迎える岩本清商店。親子3世代が集まるこの金沢下町の町家で、これからどんなものが生まれ、また育ってゆくのだろう。



IWAMOTO, Ayumi

1976年生まれ。金沢市出身。語学科フランス語学専攻。出版社勤務後、地元金沢に戻り、実家である岩本清商店で働きながら、地元のイベントやお祭りを主催。著書に『新版 乙女の金沢』（発行：マーブルトン／発売：三交社／定価1,575円）。

UCHIDA, Kensuke

1973年生まれ。茅ヶ崎市出身。語学科日本語学専攻。東京にて会社勤めの後、パートナーの岩本歩弓さんと岩本清商店へ。桐工芸職人として働く。

Information

お店の情報

名称	岩本清商店
住所	金沢市瓢箪町三番二号
電話	076-231-5421
FAX	076-231-5458
創業	1913年（大正二年）
店主	岩本清史郎
営業時間	10時～18時 火曜日定休

金沢駅から岩本清商店への道のり

●バスをご利用の場合
金沢駅東口から発車している「城下まち金沢周遊バス」に乗り、ふたつ目のバス停「明成小学校前」で降ります。バス停のすぐ先にある交差点を左に曲ると右手に岩本清商店があります。運賃は200円です。
●徒歩の場合
金沢駅東口をでて、都ホテルを左手に見ながら、正面の道をまっすぐ歩きます。Live 1という小さなデパートがある角を左に曲がり別院通り（ふらっと通り）に入ります。別院通りを抜けると、横安江町商店街を右手に見ながら小橋大通りをまっすぐ歩きます。しばらくすると城下町金沢周遊バスのバス停「明成小学校前」がありますので、そのバス停のすぐ先にある交差点を左に曲ると右手に岩本清商店があります。金沢駅からは約15分くらいです。

イベントの予定

10/7～13 「2014 日韓工芸作品展」-----

金沢21世紀美術館 市民ギャラリー B

<https://www.kanazawa21.jp/>

10/23～11/3「いしかわマルシェ（仮）」-----

JR東京駅 エキュート東京

<http://www.ecute.jp/tokyo/>

11/14～16（予定）「冬の友」-----

しいのき迎賓館横 広坂緑地

<http://otome.kirikougei.com/>

11/19～12/9 「日本を巡る 手しごとマルシェ 北陸篇」-----

高島屋 京都店 6F リビングフロア

<http://www.takashimaya.co.jp/kyoto/>



A_People 伊藤 琢

(36 ID92)
バクスター株式会社
メディケーションデリバリー
マーケティング部統括部長

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

文=樺島榮一郎(本誌)

ICUは海外から日本社会への安全な道だった？
二つの文化を知って、ビジネスの世界で奮闘する同窓生

伊藤琢さんは寮の先輩だ。アメリカで飛び級して年下なのだが、落ち着きと静けさがあり、すごく正直に話してくれたり、意外にお茶目な部分があったりして好きな先輩の一人だった。ICUに入学するまで会ったことがない、アメリカを感じさせる人でもあった。そういうわけで、今号の特集に関連して話を聞きたい人として真っ先に思い浮かんだのである。久しぶりに再会した琢さんは、まったく変わっていないように見えたが…。

日本には来たくなかった

AN：ICUに来たのはどうしてですか？

正直に言うと、日本には来たくなかったんだよ。それまでの17年間、基本的にアメリカにずっといて、自分は普通のアメリカ人だと思っていた。それが、親が日本に帰るので一緒に日本に行くことになった。良い大学に合格したら残っていいと言われて、合格した大学もあったけど親に良い大学だと認定されなかったし（笑）。ICUのアプリケーションは親が書いて、エッセイだけは自分で書かないと詐欺になるからというので、無理やり書かされた。

AN：それでいきなり寮はきついですね。

いや、ICUは人生のなかでもトップぐらいに楽しかった。最初は、単純にアメリカ人として慣れているものと違うのはいやだ、というのがあったし、日本人に対してのステレオタイプがあって、なんでこんなところに居ないといけないのか、と感じたけど、じわじわと変わっていった。やっぱり、寮は大きかった。アパートだったら、セプテンとだけ付き合っ、アメリカに戻っていたかもしれない。一緒に暮らすと、自然に仲良くなるし、日本人でもこんな人

がいるんだと分かるし、本流ではないけど仲間に入れてもらっているという感じがあった。1つ上の土橋喜人さん（35 ID91）とは、初対面が強烈だった。「ヘイ、土橋、元気かあー」って肩組んだんだけど、なんだお前は！って。話したら先輩後輩の概念がないと理解してくれて、それから結構話すようになった。稲垣秀人さん（35 ID91）は、本当に分け隔てなくつき合ってくれたし、後輩でルームメートだった栃内文彦君（38 ID94）の存在も大きかった。

あと、遊び。専攻はマージャンって言って、年間300日以上マージャンしてた。最初は、えーと、どれを切るんだ？って感じだったけど、後半は結構強くなった。あと、セプテンの友人ともいろいろ遊んだね。今でも助かったと思うのは、アイデンティティ・クライシスで悩まなかったこと。セプテンでも僕みたいに、ずっと海外にいたというのはめずらしいんだよ。自分がどこに所属するんだろう、日本になじむか、なじまないかというのが大きな問題になる人もいる。でも、僕は地球人だって思うことができた。最初の1,2年は考えてなかったけど、日本にもアメリカにもいいところがあるって思えるようになって、どっちもいいじゃんって。

二つの文化を理解して得た自信

AN：卒業後、日本の自動車会社に入社されたのは意外でした。

単純に車が好きだったというもあるけど、日本が分かったと思ったし、外資系だと支社になるから本社に入りたいというのがあった。今考えると会社には良くしてもらったね。最初はなじめなくて、周りの人を観察するようにしていた。ああ、こうい

う風に言うんだとか、雰囲気を読むってこういうことなのか、とか。2年目に地方ディーラーに出向して営業をする販売研修は大変だった。どろどろした営業の世界で理屈が通じない。たたき上げの営業所長と話して「伊藤、お前、口答えするのか？」って言われると、アメリカ人の脳はえっ、と思うけど「すみません」って言うしかない。でも、これを2年経験して、だいたい日本の文化や現場が分かったと思ったし、日本語にも自信がついた。今思えば、ソフトランディングだったね。日系アメリカ人として日本に来て純和風と言える寮に入った。寮は会社と違って、やらない自由もあつて、ちょっと日本をかじるということができたし、周りに外国に理解のある人が多かった。そういう環境を経て、日本の会社に入った。6年かかって、はじめて日本が分かったし、他の文化を理解できたということが自信になったよ。会社では、海外の営業支援にいて、中東やアジアを担当したけど、この体験が役立った。子どもにもそういう経験をさせたいと思ってるし。

ビジネスパーソンとしての志

AN：その後アメリカのMBAに行かれたわけですが

入社した時の上司が10年目だったけど、あと1年半でそれに追いつかないな、と感じて、もっと厳しい環境に行かないと成長しないと。まあ、自分が努力すればよかったんだけど。あと、もう一回ちゃんと勉強した方がいいと思って、MBAに行くことにした。10年ぶりにアメリカに帰るつもりで行って、リバース・カルチャーショックの方がすごいっていうけど、本当だった。知ってるつもりなのに、えっ、ア

メリカって、こうだっけ？って。結局いろんなことがあって、入学して半年後に卒業後は日本に戻ると決めたんだ。

AN：その後は外資系の製薬業界に。

これは偶然だね。ビジネススクールでは、1,2年の間の夏に就職を意識してインターンをするんだけど、日本に帰ると決めたのが遅かったから、ウォルマートでのインターンがもう決まっていた。ウォルマートからオファーをもらったけど、日本だと西友だし、あまりイメージできなかった。それで、手広く就職活動をやってみようと思って日本の求人が集まるキャリアフェアに行ったら、たまたま日本イーライリリーの人事部長が来ていた。日本人のトップマネジメントを育てたいという会社のビジョンにも共感したので、入ったんだよ。でも入社したのが一番忙しい6月だったし、業界が違うから分からないことばかり。1か月で10kg痩せたよ！

AN：その後、2度転職され、現在の会社に入社されました。

所属の会社だけでなく、他の会社も同列のオプションとして並べているんだ。ここまでアソシエイツ、マネージャー、ダイレクターと順調に来ていると思う。今は、全体のマーケティング戦略を自分で決められるから面白い。つらいけど、やりがいがある。自分の強みは戦略立案で、これはアメリカにいたのが大きいと思うよ。目的とゴールがあり、それを達成するためにはどうしたらいいか、自然とそういう意識になりやすい。これからは、戦略を実行に働きかけていくことに力を入れたいね。ビジネスの世界では、やっぱり世界的な経営者がトップ選手でスーパースターってことになる。終わってみれば、目標の3,40パーセントになるのかもしれないけど、やっぱりそれを目指したい。でも日本のどろどろした営業の現場も分かる僕らみたいな人材は、会社からみれば日本に居て一番バリューを発揮できる。アメリカの本社にいたら、ただのアメリカ人だし。ちょっと残念だけど、楽に本社には行けないね。

あと、人生の最後の3分の1は、途上国に学校をつくるといった社会貢献がしたいと思っているんだ。単純に地域の人の人生が豊かになるし、面白そうだし、ある面、自己満足のためにもやりたい。経営の立場から、しっかり仕組みをつくることで貢献できてると思ってる。

AN：すごくお忙しいところ、ありがとうございました。でも、正直言って、琢さんがこんなにバリバリ働くようになるとは思いませんでした（笑）

長時間労働がいいと思わないけど、やりたいことがあるから。昔から、長時間のマージャンは強かったしね。24時間ぐらいやつてると、他の人は、だんだんハイになったり判断を間違ったりするようになったりするけど、僕は普通に続けられた。マージャン専攻を無駄にはしませんよ（笑）。

いとう たく (ITO, Taku)

1993年社会科学科卒。専攻は経営学。同年日産自動車入社、2001年退社。1年の進学準備期間を経て、2002年ミシガン大学ビジネススクール、2004年日本イーライリリー(株)、2009年ノボ ノルディスク ファーマ(株)、2013年より現職。第二女子寮出身の妻との間に2女。

突撃! 気になるあの“メジャー”

第9回 ギャヴィン・ホワイトロウ上級准教授(人類学)

人類学。言葉自体は知っているものの、人類について学ぶということを具体的に思い描こうとすると、「人類」という言葉が大きすぎて輪郭がぼやけてしまうような感じがします。

人類学とは、そしてICUの人類学メジャーとは何なのか、ギャヴィン・ホワイトロウ上級准教授にお話を伺ってきました。

文・写真：小林智世(本誌)



ホワイトロウ、ギャヴィン・H WHITELAW, Gavin H.

2007年、日本のコンビニエンスストアに関する研究で、イエール大学博士課程修了。2007～2008年、ハーバード大学にReischauer Institute Postdoctoral Fellowとして在籍。2008年、国際基督教大学に准教授として着任。同大学の人類学メジャーおよび大学院にて授業を行う傍ら、日本研究メジャーコーディネーターも兼任。研究テーマは、グローバル化、商業、労働、食、現代日本における消費文化。最近は、不便さ(inconvenience)、食品廃棄などのテーマに関心がある。

人間であるとはどういうことか、 を科学する

人類学は様々な学問の中でも歴史が古く、19世紀には既に一つの分野として存在していました。その根幹を成すのは、「人間であるとはどういうことか」という問い。人文科学・社会科学・自然科学のすべてに通じる、根源的かつ普遍的なテーマを扱う学問と言えます。

人間の本质を探るために人類学が用いるのは主に、考古学的な視点、文化的な視点、言語学的な視点、そして生理学的な視点の4種類です。しかしICUの人類学メジャーが扱うのは、文化的な視点からの考察(＝文化人類学)のみ。考古学・言語学・生理学的なアプローチを学びたい学生は、言語学メジャーや生物学メジャーなど、他の分野のクラスを履修します。リベラルアーツが実践されている環境の中で、違う分野の学生と共に学ぶことで、人間を考察する多様な視点を養ってほしいと考えています。

ただ、文化人類学というものの自体が広がりを持った学問なので、人類学メジャーのクラスで扱うテーマも多岐にわたっています。民族、宗教、ジェンダー、経済など、人類学と無関係に思えるようなテーマを人類学的に分析するクラスも沢山あります。違うメジャーの学生にも、興味のあるテーマを人類学的な視点で考察することを経験してほしいと思います。

読む・見る・聴く、そして実際に やってみる

基本的に人類学の研究は、研究対象とした人間や集団と時間を共有し、その経験をもとに対象を考察するという手法をとります。対象と相互に影響し合いながら、相手の意識や価値観の根底にあるものを見極めるのです。私自身も、調査のために日本のコンビニエンスストアでアルバイトをしたことがありました。対象を単に外から観察するのではなく、同化するのでもなく、行動を共にしながらも客観的な視点を持ち続けることが求められます。

人類学のカリキュラムを決める際には、学生たちが人類学研究の手法を体得できるよう、読む・見る・聴く(read, watch, listen)、そして実際にやってみる(do)という要素を入れるようにしています。論文や映像、研究者や他の学生の研究成果などに触れることは、自分と異なる価値観や生活様式を持った人々への理解を深め、視野を広げることに繋がります。そして、実際に研究対象の人々と関係を築く中で、頭だけでなく行動を通じて人間を科学することが身に付いてゆくと考えています。

私が教えている「現代日本の文化」というクラスでは、文献購読などを一通り終えた後、現代日本の食文化をテーマにしたフィールドワークを行いました。週に1回、履修生たちが一緒に昼食をとる「弁当の日」を設定し、その時の体験をもとに自

分たちの食文化を考察するというのが課題です。お弁当を自分で作る学生もいれば買ってくる学生もあり、自分の作ったおかずを配る男子学生もいる。みんなの予定を合わせるのは難しい……。実際にやることで、文献や資料には載っていない自身の食文化のあり方が浮かび上がります。学生たちがこのフィールドワークから得た気付きは実に様々でした。お弁当のメニュー、食事の中の会話や人間関係、弁当の日に来られなかった学生が抱える事情など、学生一人一人が独自の視点で現代日本の食文化の実態を再発見していました。この経験は、現代を生きる自分自身をより深く知ることに繋がつたのではないかと思います。

知的好奇心と対話への欲求

ICUの学生たちは非常に好奇心旺盛ですし、議論したい、人と意見を交わしたい、という意欲が強いと感じます。今、4年生の卒論を読んでいるのですが、ランドセルに見る母親たちの意識、日本とフランスのカフェ文化の比較、なぜ鎌倉は世界遺産になれなかったか……など、それぞれの着眼点が実にユニークで、こうした研究に触れることで私自身も刺激を受けています。

また、こちらが何も言わなくても主体的に議論を始める態度も素晴らしい。海外での生活が長かった学生など、様々なバックグラウンドの学生が集まっている点も、視野を広げることに繋がっているのではない

でしょうか。ただ、日本人の学生に対しては、英語で論文を書くことを億劫がらずにやってほしいと感じることがあります。ICUという環境にいるうちに、自分の考えを世界に向けて発信するスキルを身に付けておくことは、絶対にプラスになるはずです。

人類学メジャーのデータ

●開講されているクラス(一部、2014年現在)

人類学原論
文化の比較
文化人類学とジェンダー研究
現代日本の文化
環境と人間生活
人類学現地調査
主要な人類学者と民族誌 など

●担当教員(2014年度現在)

加藤 恵津子 KATO, Etsuko
マラーニー, ショウン K. MALARNEY, Shaun K.
森木 美恵 MORIKI, Yoshie
ホワイトロウ, ギャヴィン H. WHITELAW, Gavin H.

特集 留学生はニッポンに何を求めるのか スティール先生にインタビュー

「和とICU」が今号の特集に決まり、そのなかで取り上げたいトピックの一つに挙げたのが留学生の動向。
今の留学生は日本の何に興味を持ってICUに来るのか？ 留学生を受け入れる教育機関として、ICUの“立ち位置”は昔と今で変わって来ているのか？——。
こんな問いを頭のなかに置きながら、1960年代に交換留学生としてICUで学んだウィリアム・M・スティール教授に話を聞いた。

取材・文：石井雅仁、森川幹人（本誌）



ウィリアム・スティール M. William Steele

教養学部歴史学教授。Ph.D（ハーバード大学、1976年：東洋史および言語専攻）。1967～68年カリフォルニア大学（サンタ・クルーズ校）からICUに交換留学。1976年に歴史学・日本研究の非常勤講師としてICUに赴任。その後、1978年から1980年までハーバード大学で日本史の講師を務め、1981年ICU助教授、1984年准教授、1989年に教授就任。2003年度から2008年度まで教養学部長。著書に『もう一つの近代』（ペリカン社、1998年）『ローカルヒストリーからグローバルヒストリーへー多文化の歴史学と地域史』（共編：岩田書院、2005年）など。

編集部（以下AN）：先生が日本で学び、日本史を専攻することになったきっかけについてまずお話しいただけますか？

スティール先生（以下スティール）：私が大学（カリフォルニア大サンタクルーズ校）に入学したのは1965年。もともと古いものに興味があって、2年生の時には、ギリシャとかローマの歴史を学ぼうと思っていたんです。西洋史専攻でも、非西洋の歴史の授業を一つは必須で取らなければならない。ちょうど東アジア史の授業があり、その時に教わったのが入江昭先生（注1）だった。ちょうど教鞭に立ったばかりのころです。私にとって、ほぼ初めての日本人との出会いだったのですが、とてもいい先

生でした。やさしく指導してくれて、とても誠実だった。だから授業の中身もですが、先生に非常に興味を持ちました。ところが入江先生は翌年、別の大学に行ってしまうんですね。それで「日本に興味があるのなら、ICUとの間に交換留学制度があるからどうか」と。それで応募して、奨学金をもらってICUに来たというわけ。67～68年。（日本の大学）紛争中のことです。

ICUではカナダハウス、小出先生などから日本語を学び、日本史はミラー先生がいました。長（武田）清子先生の授業もとりましたよ。寮の友だちが「一番面白い授業だ」と言うので。日本語だったけれどもね。友だちも「（言葉が）足りないところ

は手伝うから」と言ってくれて。長先生も「論文は英語で書いてもいいし大丈夫ですよ。TAもいますし、熱心ならどうぞ」と。チャレンジでした。その時は和辻哲郎（注2）について調べました。そこから日本史と日本語を本格的に学び始めた。当時は（ICUに）日本研究プログラムはなかったけれども、英語でも相当日本について学ぶことが出来ました。

交換留学を終えてアメリカに帰るとき、おみやげとしてどうしても掛け軸がほしかった。でも高い。そうしたら、寮の友だちの親から「大垣の叔父が掛け軸をたくさん持っている」という話があって、その後その叔父さんから手紙をもらった。「掛け軸

注1:

いりえ・あきら

日本出身者として初めてアメリカ外交史学会会長やアメリカ歴史学会会長を務めた国際政治、歴史学者。ハーバード大名誉教授。1934年、東京生まれ。思想・文化の影響を重視するアプローチを特色とし、一国の外交史研究を超えた多国間の視点と、その相互作用を組み込む「国際史」研究を提唱した。

注2:

わつじ・てつろう

1889～1960年。哲学者・倫理学者・日本文化史家。兵庫県姫路市出身。日本精神史・仏教・西洋哲学など多方面にわたる研究を進め、『日本精神史研究』や『風土』『倫理学』などの著作にまとめた。東京帝大教授として倫理学講座を担当。「人間の学としての倫理学」と呼ぶ独自の哲学を唱えた。

注3:

すずき・だいせつ

1870～1966年。仏教哲学者。金沢市出身。東京帝大哲学科に学びつつ、禅の世界に傾倒。1897年(明治30年)に渡米し、出版社編集員として約11年間滞在。帰国後は学習院教授、大谷大学教授などを歴任。仏教(とくに禅)の著作を多く英文で発表した。主要著書に『禅思想史研究』、『日本的靈性』などがある。

2014



昔も今もあまり変わらないバカ山でのランチ風景

1968



芝生の上で学生と語らう若き日のスティール先生(中央)

を差し上げるが、条件が3つある」という。一つは大垣を訪ねること、二つ目は長良川と一緒にアユ釣りをすること、三つ目は勝海舟について学ぶことだった。

勝海舟の名前は、この時初めて聞いた。だからどういう人なのか分からない。勝海舟は私にとって、三つのうち一番難しい条件だった。ちょうどそのころ、松浦玲の「勝海舟」という本が中公新書から出ました。それを買って、まだ日本語はあまりできなかったけど、一生懸命その本を読みました。今もまだ持っているけど、字引を使いながら、勝が幕臣であったこと、蘭学を修めて咸臨丸で米国に渡航したこと、江戸城開城に際して西郷隆盛と会談したことなどを知り「面白い人だな」と分かった。苦勞して、これが日本語で一冊の本を読んだ最初だった。

それから大垣に行った。アユ釣りは釣竿ではなくて小さな網でアユを捕る漁だった。その方は造り酒屋を営んでいて、アユを肴に日本酒を飲みながら勝海舟の話をしました。そこでいただいた掛け軸が、なんと勝海舟の書だったんです。今も自分の宝物です。そして米国に帰り、「ペリー来航に対する、当時の日本の思想家の対応・反応」をテーマに卒業論文を書きました。

その後の私の研究は、一貫して「勝海舟と明治維新」。もともとの日本への関心は歴史だったかもしれないけれども、交換留学の時に私に一番刺激になったのは寮の友人でした。それで日本語もうまくなったし、文化と人から日本に惹かれていった。それから日本とずっとつきあっています。

AN: そのころの留学生にとって、日本への興味はどの辺にあったと思いますか？

スティール: 60年代は、まだ日本経済の力は弱かった。だから美術とか仏教、禅とか能、歌舞伎とか、日本の伝統文化に関心のある学生が多かった。そのころ英語で書かれていた日本関係の本のなかでは、鈴木大拙(注3)がよく読まれていました。

武士道への関心は、テレビドラマの“Shogun”が話題になった80年代からだと思います。60年代は学生紛争があったから、日米関係の方が直接の関心事でした。ベトナム戦争、ベ平連の活動もあったし。日本人の学生には当時、政治の話はかなり聞かれた。日本の政治、米国の政治、公民権運動とかベトナム戦争反対とか、毎晩毎晩議論をした。振り返ってみるとあの一年間、外からアメリカを見ることでアメリカのことをいろいろ考え、自分もかなり変わったと思います。帰国してからは反戦運動

にも参加したし、徴兵されたときは良心的兵役拒否者として衛生兵の仕事をしました。**AN:** ICUの教員としても長年留学生と関わっていますが、彼らの日本観は時代によって変わってきていますか？

スティール: 1970年代には日本経済への関心が出てきました。エズラ・ヴォーゲル先生のベストセラー“Japan as Number One”もありましたね。バブルの80年代は経済発展の秘密とか、カイゼン主義とかを学びたいという関心。日本経済は、その後はあまり魅力がなくなったけどね(笑)。

最近はポップカルチャー。アニメやマンガ。「クール」とか「キュート」とか。それもありますけど、もう一つ、日本のなかにあるクリエイティビティー。モダンなデザインとかファッションとか、そこへの関心も高いと思います。日本は建築、アート

(株)ICUサービスのご紹介 同窓生向けのサービス

(株)ICUサービスは、ICUの100%出資による事業子会社です。

- ◆ ICU教会での結婚式サポートサービス
- ◆ お子様の為の、ジュニア・キャンパスキャンプ事業
- ◆ 海外・国内旅行保険など、保険代理店サービス
- ◆ お部屋探しサポート、 etc.

そうだ!! ICUサービス へ行こう!

本部棟(Admi-Bldg)2F 続きはWebで→ **ICUサービス** で検索
Mon-Fri 9:00-12:00, 13:00-17:00
TEL:0422-33-3530 Mail:info@icu-service.com

翻訳・通訳

優秀なプロによる“読みやすい翻訳”で25年の歴史。

EXIMは、
低料金で誤訳の多い
“機械翻訳”には決して負けません。

お客さまに満足と安心を!
それがわれわれのモットーです。
まずは、お試しを。

同窓生
10%割引

日本外国特派員協会会員／東京商業会議所会員

翻訳・通訳・制作(デザイン・印刷)

(株)エクシム・インターナショナル
EXIM INTERNATIONAL, INC.

☎03-3431-2118

URL: http://www.exim-int.com/

東京
事務所

〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 ゼネラルビル3F
TEL 03-3431-2118 FAX 03-3431-2120
E-mail: tokyo@exim-int.com

横浜
事務所

〒232-0063 横浜市中区中里2-14-5
TEL 045-721-4800 FAX 045-721-5165
E-mail: yokohama@exim-int.com

President 永島 克彦(14期) Advisor 比奈地 康晴(14期)

2014



今も昔もときに教室よりも熱くなる芝の上の議論

などで世界的にかなり活躍している。伝統文化に関心がある学生も、もちろんいます。

何かのきっかけで日本との出会いがあって、関心を持つ。それは一人ひとりで違う。人との出会いで、偶然に日本に興味を持つ人もいます。中国に関心があるけど、行くのはなかなか難しい。それで日本で中国について学ぼうというケースもある。自分としては、一般化してしまうのはできるだけ避けたいのです。

アメリカ人もいろんな人がいますよ。日本人は一般的に“we”と“they”という物の見方で考えがちだけれど、weもいろんな人がいるんじゃないですか。一般の日本人がいますか？みんなそれぞれ違う。theyも同じです。今、ICUにはアメリカだけでなく、ヨーロッパからの学生も多くいます。中国や韓国、いろんな学生がいます。

AN: うーん、「一般化はできない」と言われればその通りですね。weとtheyで考えないというのはICUで学んだ大切なことですが、社会に出て私たちがそういう日本社会に染まってしまったのかと自戒します。さて、留学生にとってICUで学ぶ魅力についてはどう思われますか。

スティール: 日本語を学べ、日本研究がで

きる。そしてやはり寮があって、日本人とともに生活も授業もできるということがいい点だと思います。日本の他の大学では、留学生は専用の授業をやる、また日本人学生に対しては日本人向けの授業をやる。ほとんど交流がない。場合によっては寮も違うし……ICUは違いますね。完全にミックスしている。国籍の別なく、授業をやっている。

昔は確かにICUの日本史でも、9月生や留学生向けの授業と4月生向けの授業と2種類ありました。でも1985、86年あたりにこれはダメだと分かって、これを統合しました。米国人から見た日本史ではない、歴史学の視点で日本史を語るということでした。

※モノクロ写真は全てスティール先生提供



1968

＝編集部より＝

「9月生」、「留学生」、「日本的なもの」に的を絞って質問する私たちに、スティール先生はときおり困惑する様子を見せながら話を続けた。それはそうだ。「できるだけ4月生と9生の枠を壊したい」（本人談）のがICU教員としての立場。カテゴリー分けはそもそも、この大学には無用の物だ。先生は故・湯浅八郎氏（初代学長）が語った“*There are no foreigners at ICU*”というフレーズも口にした。

先生は昨年度から2年間、「献学60周年記念教授職」という肩書きで仕事をされ、「近代日本とICU」「世界環境史」「リベラルアーツの歴史」の3科目を担当している。先生曰く「今の学生は入学しても、ICUが戦後に特別なミッションを持って出来た大学だということを深くは知らないし、意識もしない。例えば、立教とど

こが違うのか尋ねても答えられない。」

今年の「近代日本とICU」では1期生、2期生に授業に来てもらい、自分たちの学生時代の経験を語ってもらったという。こだわっているのは平和をめぐる問題と、ICUの創立時から端を発するそのユニークさだ。「ICUは戦後の大学。もともとの理念は平和にある。二度と戦争をしない、平和のための教育、民主主義、日本と他国との和解、平和の大学です。」

日本の“戦後的なもの”が壊されていく風潮もあるなか、スティール先生は力を込めてこう話す。「ICUが他の大学と違って、いることをできるだけ守りたいんですね。大学はクリティカルシンキングを養うためのもの。これは守りたい。勇気を持ってメインストリームに反発していきたい。」



2014



吉住歯科矯正クリニック

1976年に吉祥寺に初めての矯正歯科専門クリニックとして開業し、現在は4000人近い患者様の歯並びに携わってきた経験豊富な院長と、ICU卒業後、東京歯科大学を卒業し歯科医師となり、同大学歯科矯正学講座にて研鑽を積んだ副院長の二人で、地域に根ざしたクリニックを目指しています。

国際社会で活躍する上では「キレイな歯並び」は必須条件とも言えます。欧米では「キレイな歯並び」が社会的ステータスであるとも言われていますが、当クリニックでは見た目だけでなく、正しい機能的な噛み合わせを目標にしています。機能的な噛み合わせは、日常生活において食事が食べやすくなったり喋りやすくなるばかりでなく、虫歯や歯周病の予防にもなり、結果として審美性やQOL (Quality of Life) の向上につながります。

歯並びを治すことで、これから国際社会で活躍するであろうICU生ならびにそのご家族の一助になれば光榮です。歯並びのお悩みは是非当クリニックにご相談ください！

住 所 東京都武蔵野市吉祥寺南町1-10-1 東ビル 3F

アクセス 吉祥寺駅南口徒歩3分

受付時間 10:00～18:00

休 診 日 木曜日・日曜日

H P <http://www.yoshizumi-c.com>



お問い合わせ・ご相談、初回無料カウンセリングのご予約

0422-48-3365



院長 **吉住 肇**

東京医科歯科大学
歯学部卒業
日本矯正歯科学会認定医



副院長 **吉住 淳**

国際基督教大学教養学部卒業
(人文科学科、04セブテン)
東京歯科大学歯学部卒業
同大学歯科矯正学講座所属
日本矯正歯科学会・
東京矯正歯科学会所属

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前診療 (10:00～13:00)	●	●	●	—	●	●	—	●
午後診療 (14:30～18:00)	●	●	●	—	●	●	—	●

部室の風景 (2013)



創設メンバー (ID78)、卒業間近に先生方と (1978)



演奏前の楽屋 (2012)



ICU長研・東大長研定期演奏会 (2013/12/24)

長唄研究会創立40周年祝賀会が行われました!

茶道部、和太鼓部、箏曲部如月会、日本舞踊研究会……ICUの部活やサークルの中には、「和」をテーマに活動しているところがたくさんあります。そんな中、長唄研究会が設立40周年を迎えたとのことで、これまでの歩みと祝賀会の様子などをOGの大北さんにご寄稿いただきました。

寄稿・大北博美 (49 ID05)

去る6月21日、新宿にてICU長唄研究会創立40周年祝賀会を開催しました。40年にわたる部の存続を祝し、これまで長く無償で指導くださっている先生方へ感謝をお伝える会として、初代OBから現役部員、先生方、顧問の先生、また演奏会や合宿等で活動を共にする東京大学長唄研究会のOB・現役、総勢80名近くの方に出席頂きました。スライドショーで40年を振り返り、世代を超えた交流を楽しみ、先生方へお礼を贈呈して感謝をお伝えすることができました。あっという間の2時間半でしたが、この40年の長さを一同で実感するひとときとなりました。

日本的な文化を求めて創設

さて、この長唄研究会について皆さんご存じでしたでしょうか。今回のアラムナイニュースのテーマ「ICUの中の和」にも重なる本研究会について、少しお話させていただきます。始まりは40年前の1974年春。創設メンバーの新原(旧姓西澤)雪乃さん(22 ID78)は、当時から

今に至るまでをこう語ります。

「ICUに入学してまず驚いたのはあまりに廻りが非日本的であったことです。まずキャンパスが日本の大学と雰囲気が違う、授業はフレマンで英語漬け、構内を歩いていると英語が普通に聞こえてくる。私は子供の頃アメリカで育ちましたので違和感はありませんでしたが、むしろ日本的なものに飢えていたのかもしれない。

せめて部活は日本的なものをもっと探しましたが見つかりません。偶然同じセクションBでお友達になった桑原百代さんがお琴をなさるといので『邦楽研究会』を作り、セクションメートを片端から部員に誘いクラブを設立しました。人数は集まりましたが、顧問の先生がいらっしゃらないと部として認めてもらえません。幸運にも当時経営学の教授で歌舞伎がお好きでいらした中島省吾先生にお願い出来ました。先生はICUを離れられても機会あるごとに定期演奏会を聞きにいらしてくださいました。歴代の顧問の先生方、現在の佐野好則先生にも大変お世話になっております。部

室はあまり活動されていないクラブにとりあえず荷物だけ置かせてもらい、練習はD館の部屋をその都度借りて行いました。長唄三味線と唄を指導して下さる先生方も見つかり40年間通っていただいております。卒業までの4年間で定期演奏会の開催、全国学生長唄連盟への加盟及びその演奏会にも出演してクラブを軌道に乗せて卒業いたしました。81年にはお琴と別れて活動することとなり『長唄研究会』と改名されました。クラブの創立から40年が過ぎ、200人近いクラブ部員が卒業し、現在に至っております。又卒業後も長唄を楽しんでいるOBもおります。長い年月の間には部員が30人以上いる時もあれば、新入生ゼロという年もありました。その間ずっとご指導くださり、クラブ存続の危機の時も何とかつないでくださっている先生方には感謝いたしております。この頃は長唄という言葉を知らない学生も多いので通称『三味線クラブ』と言って部員を募集しているそうです。どんな形であれ、これからもICUで長唄研究会が育っていくことを願っています。』

偶然の出会いからプロの奏者に

OBには長唄研究会での活動がきっかけでプロの演奏家になった部員もいます。

清水惣太郎さん(52 ID08)は在学四年時に国立劇場の第四期歌舞伎音楽(長唄)研修生となり三年間の研修修了後、尾上菊五郎劇団音楽部に入部。その後長唄杵已流家元七代目杵屋巳太郎(現 淨貢)に杵屋巳佐(みすけ)の名を許され歌舞伎に専従する長唄三味線演奏家として日々歌舞伎座や全国各地の劇場等で演奏を行っています。清水さんが長唄(研究会)を知ったのはICU入学直後の“花見”だったそう。

「長唄は『和』のものという意識はなく、三味線に触れたことで初めて知った、ある意味カルチャーショックでした。純粋にその音や音楽に魅力を感じたんです。

先入観を持たないで、一度三味線に触れてほしいですね。もしかしたら素適な出会いになるかもしれない。ただ聞く、見る、インターネット等で知るだけでは分からないことがあると思います。

ICUではいろんな文化・人に触れる機会があります。色んな事を一度でも体験して自分の世界を広げるという心を持ってほしい。それを通して自分の物差しを増やすこともリベラルアーツと言えるのではないのでしょうか。長唄に触れることもその一つになると思います。好奇心をいっぱい持ってアンテナをはりめぐらしていると、自分だけのコレというものが見つかるかもしれない。私自身、大学で偶然出会った長唄、三味線によって人生が大きく動きました。ふとしたことで何がどう転ぶかわからないですね。」と語ってくださいました。

いまの長唄研究会

現在、長唄研究会は部員10名。お稽古を月3、4回、先生のご自宅(または部室)で行っています。部室はいつでも解放しており、部員は各々自主練をしています。

三味線を弾いてみたい、長唄について知りたいと思った学生の皆さん、ぜひ気軽に新D館4階の部室(472)を訪ねてみてください。

創立から40年間、途切れることなく三味線指導を続けてくださっている稀音家六綾先生は現役部員やOBについてこう語ります。『『伝統文化の次代への継承』などという大げさなことではなく、自国の伝統芸能をいくらかでも知っていることは、彼らがこれから世界の舞台へ出て行き、他国の異文化と対峙したときにそれと戦う剣にはならずとも自分を守る鎧になるであろう事を願っています。』

ぜひ一度長唄、三味線に触れてみてください。日本の文化・伝統芸能を知る機会でもあり、またそういった枠を超えた何かに出会うきっかけとなるかもしれません。

ワインと食と音楽と
ヴィノテーク 7
2014.7
No.47
魅せる
ニュージーランドワイン

発行人・田崎真也
日本唯一の月刊ワインジャーナル
ヴィノテーク
www.vinotheque.co.jp

ご希望のバックナンバーを1冊プレゼント!
shop@vinotheque.co.jp までご連絡ください。

好評連載「ワインの古酒礼賛」の単行本化が決定! 今秋発売予定!



桜祭り 第9回 DAY賞表彰式

文＝赤松弥生、小林智世(本誌) 写真＝樺島榮一郎(本誌)

**桜祭りも今年で9回目。
10周年まで、残すところあと1回です。
チャペルで、食堂で、今年も沢山の再会や驚きがありました。**

都内全域で突風が吹き荒れた3月31日、大学礼拝堂で2014年桜祭りが行われた。

オープニングは毎年恒例の、ICU OGC 合唱団・ICUメサイヤ関係者・卒業生有志・在校生有志によるメサイヤコーラス。大学オルガニスト・菅哲也氏の伴奏に合わせ、力強い「ハレルヤ」の音が場内に響き渡った。司会を務めるNHKアナウンサー・柴崎幸雄氏(46 ID02)が同窓会総会およびDAY賞表彰式の開会を宣言し、国際基督教大学教会名誉牧師・古屋安雄氏による開会祈禱が行われた。

総会では、まず同窓会会長の永渕光恵氏(21 ID77)が2013年度の活動を報告するとともに、2014年度の活動予定を提示。昨年度は日比谷潤子学長が国内外での同窓会支部会に積極的に出席していただき、同窓生のリユニオンの推進につながったと述べた。また、同窓会の部会に「IT部」が新設され、同窓会のITインフラの強化に向けて活動を本格化させてゆきたいと

語った。続いて同窓会財務部担当副会長・佐藤久恵氏(29 ID85)が、2013年度の決算報告を行うと共に、2014年度予算案を発表。運営の活発化を見込んで、今年度は一般会計からの繰越金を増額する旨を説明した。最後に役員選考委員長の富岡徹郎氏(26 ID82)より、2014～2015年度の役員・評議員候補が発表された。

2014年度活動予定、予算案、および役員・評議員候補者はいずれも、当日の出席者168名および事前に寄せられた委任状326通によって承認された。また、前出の永渕会長の任期満了に伴い、次期会長の木越純氏(27 ID83)より花束が贈呈される場面もあった。

続くDAY賞表彰式は、選考委員長の宮武久佳氏(G1983)による挨拶で始まった。宮武氏は、「1人とあって2人といない」というICUの理念の下では同窓生誰もがdistinguishedであるために、受賞者を決定することがいかに困難かを説明しつつ、

その中から選ばれた受賞者7名への祝辞を述べた。また受賞者に対して今後もICU同窓生の魅力を広めてほしいとの期待を述べた。各受賞者は、スピーチや司会の柴崎氏との一問一答を通して、ICU時代とそれ以降の人生を振り返り、受賞の感想を語った。受賞者には、表彰盾と記念品の写真立てが贈呈された。

次に、卒業50周年記念式典がとり行われた。永渕同窓会会長は卒業後50年を迎える8期生に対する祝辞の中で、8期生の特徴として募金者数の多いことやDAY賞受賞者が1期に続いて多いことを称賛。8期生代表として挨拶に立った三宅一男氏は、入学前、ICUの素晴らしさを熱弁する故湯浅八郎名誉総長に会った際のエピソードを紹介し、ICU建学に関わった人々に思いをさせ、今、ICUが果たすべきミッションは何か考えることの重要性を強調した。8期生には記念品が贈呈された。

その後、大学理事長の北城恪太郎氏なら

びに学長の日比谷氏が祝辞を述べた。最後に、永渕会長と木越新会長からの挨拶の後、讃美歌斉唱、祈禱を経て閉会となった。

懇親会は、例年通り大学食堂で開催された。本年のDAY賞受賞者であり献学60周年記念教授でもある宮川繁氏による乾杯の音頭の後、旧知を懐かしむ同窓生達の声会場を満たした。途中、同窓生による合唱披露もあり、歓談はいつまでも続いた。



卒業50周年記念式典に参加した8期の集合写真。48人が集った。

DAY受章者に、 同窓生に向けての コメントをいただいた。



丹波 望

TAMBA, Nozomi (1)

まさに草創！一面の草・草・草、未完の校舎、質素な教員宿舎のほか何もなかった「ICU語学研修所」。だがそこには素晴らしい先生方、仲間、そして寮のGodmother 竹内瓊江さんとの出会いがあった。湯浅先生は「ICUは” University of tomorrow”である。」と説き、これに対し学生たちは「本当に何もない、いつになったら完成するのか..」と陰口をきいた。今わたしは”とわ永久に完成をし識らない大学”と受けとめている。絶えず自らを問い続け” つね恒に未完成”、そこにこそ我らの誇りがあると思う。

57 年社会科学科卒
1934 年秋田生まれ。1952 年「国際基督教学園」(ICU 語学研修所) 入学。続いて大学で社会学を専攻。1957 年「東京神学大学」編入。1962 年同大修士課程修了。父のもと「日本基督教団能代教会」担任として牧会に従事。1973 年同辞任。教育を通じ「地域の牧師」となることを願い、「地の塩土」をおこし、それを核に「市民講座」など社会教育始動。1985 年「能代文化学院」と協同、より広い市民的活動を展開。1998 年地域住民多数の協力・参加を得て「秋田しらかみ看護学院」を創設。現在、学校法人「のしろ文化学園」理事長。看護学院において看護師養成、文化学院において介護員養成を中心に無職者就業訓練・生活支援の働き、他に子育て支援(認定こども園)、高齢者自立、自死予防対策、非戦平和の課題に取り組む。



栗山 昌子

KURIYAMA, Masako (3)

ICUで学んだ開拓者精神、そして自由な発想は、外交官の夫と共にアメリカやマレーシアで国際交流に携わる中で大きな力になりました。同窓生の輪の中で、ピースベル奨学金への参加などを通して、今はICUをさらに身近に感じています。今後も、アメリカからの献金と祈りによって創設されたこの大学の更なる発展を支えてゆき、先輩としても、後輩たちの参考になるような経験談を語る機会を大切にしたいと思います。

59 年人文・社会科学科卒
駐マレーシア大使、駐米大使の夫と共にクアラルンプール、ワシントンに在住。日本文化の紹介を通しての国際親善、特に子供たちの日本への関心を高めることに務めた。マレーシア国より日マ友好に寄与したと KMN 勳章を受章。米国シェナンドー大学より日米文化交流で名誉博士号を受ける。メリーランド大学が「日本を学ぶ学生に与えるミニ・クリヤマ奨学金」を設立。外務省夫人のための会、帰国子女を考える会会長。アジア婦人友好会理事長。東京家庭裁判所調停委員。厚生省専門委員会等の委員。現在国立感染症研究所倫理委員、エイズ予防財団評議員。その他、国際交流に関する講演、講義、テレビ出演、エッセイ執筆など。著書「マレーシアの魅力」、共著「グローバルフロント東京」など。



土屋 隆一

TSUCHIYA, Ryuichi (7)

<土屋さんの同期生で、学生時代から現在に至るまで親しくされている大宅映子氏にDAY受賞について語っていただいた。>
土屋さんは1967年からICUの同窓会活動に積極的に携わってきました。また同窓生が、転居、転職、海外赴任、帰国など、変化のある度に彼が声をかけてくれて、みんなが集まります。本人は、世のために何かをした訳ではないからと受賞に抵抗があるようですが、彼は同窓生の結束を強めることを通じて、ICUの価値向上に大きく貢献していると感じます。

63 年自然科学科卒
本田技研工業㈱にて、海外販売室・営業業務室・New Honda Plan 事務局・流通研究グループ・販売調査室・営業所・外国部等を経て、82 年 4 月に退社。82 年 5 月、運送サービス㈱取締役就任、91 年社長に就任し現在に至る。同窓会では、67 年に評議員・理事に就任し、69 年から 90 年迄組織担当副会長、90 年から 94 年迄広報担当副会長、94 年から 98 年の 4 年間第 13 代会長を勤める。その他 98 年に「同窓会館」建設委員長を、又 99 年に「50 周年記念募金委員会」(松本吉見委員長) 委員を勤め、現在は評議員。大学法人には、75 年から現在迄、評議員を勤め、90 年から 03 年迄理事に就任。その間 98 年から 02 年に「財政問題検討委員会」(委員長：西田一郎財務副学長) 委員。11 年に「献学 60 周年記念募金委員会」アドバイザーに就任。



池 央耿

IKE, Hiroaki (8)

ICUのキャンパスは同期会などで訪れることがありましたが、今回はDAY受賞と8期生卒業50周年のリユニオンが重なり、うれしいですね。翻訳家としての長年の経験から、翻訳とは日本語に始まり日本語に終わると考えます。母語を離れた外国語というものではなく、ICU生には特に、英語がどんなにうまくなくても日本語の大切さを忘れないでほしいと思います。

64 年人文科学科卒
1940 年、東京生まれ。国際基督教大学教養学部人文科学科卒業。岩波映画・企画演出部を経て 1970 年以降、英米文学翻訳に専念。「ビートルズ」ジュリアス・ファスト、「バイド・バイバー」ネヴィル・シュート、「怒りの山」ハモンド・イネス、「オイル・クラッシュ」ポール・アードマン、「E. T.」ウィリアム・コッツウィンクル、「黒後家蜘蛛の会」アイザック・アシモフ、「バードは生きている」ロス・ラッセル、「ヘンリー・ライクロフトの私記」ジョージ・ギッシングほか多数。近著にエッセイ集「翻訳万華鏡」がある。



池上 清子

IKEGAMI, Kiyoko (19)

ICUでは素晴らしい先生や友人に恵まれ、卒業後も相手がICU出身と知ると、国内外を問わず、心が通じてまるで昔から仲良しだったかのように感じます。今、私は大学院(博士前期・後期過程)で社会人の学生を教える立場にありますが、その際の教授法はかつて自分が教わったICUの先生方がまさしくモデルであり、「専門的かつ分かりやすい」そして「参加型」の授業を心掛けています。

75 年社会科学科卒
79 年大学院行政学研究科修士課程修了 UNHCR、国連本部、(公財) ジョイセフ、IPPF ロンドン本部、UNFPA 東京事務所長などを経て、2011 年より日本大学大学院教授。大阪大学大学院人間科学研究科にて博士号取得。開発を担当する国連機関と NGO では 50 か国以上で活動し、主に女性の健康、人口問題、HIV/ エイズなどの課題に取り組む。外務省 ODA 評価有識者会議委員、TICAD 野口英世アフリカ賞選考委員などを務める。日本の保健分野 NGO 間のネットワーク構築にも寄与。著書に「有森裕子と読む 人口問題ガイドブック」(国際開発ジャーナル社) など。ニュースウィーク日本語版特集「世界で活躍する日本人女性 100 人」の一人にも選ばれた。



宮川 繁

MIYAGAWA, Shigeru (19)

2013年に引き続き、自分自身が学生だったICUの教壇に立ち、学生に教えられることは、非常に光栄です。自分もICU生だったため、彼らの将来が何となくかいまみえ、5年後、10年後、こんな風に進んでくれたらいいと考えながら教えています。現在の学生は授業に熱心ですが、学生からの発言がより一層増え、コミュニケーションをとりながら授業を進められればと願っています。

75 年語学科卒
1975 年国際基督教大学語学科卒業。同年 8 月から 2 年、調布市のアメリカン・スクール・イン・ジャパン小学部で日本語講師を務めた後 1977 年にアリゾナ州立大学言語学大学院に入学、1980 年 6 月に博士課程を修了。同年 8 月にオハイオ州立大学で日本語・言語学助教授となる。1987 年に准教授になり、1988 年から 1991 年まで学科長を務める。1991 年にマサチューセッツ工科大学 (MIT) の言語学教授として着任。1995 年には、新しく設立された高知県・ジョン万次郎日本語・日本文化講座の教授に任命される。言語学のほか、マルチメディア、オープン・エジュケーションでも仕事をし、2009 年から、MIT オープンコース・ウェア・ファカルティアドバイザー委員長を務めている。2013-14 には ICU 献学 60 周年記念教授として春学期にて教壇に立つ。



関 啓子

SEKI, Keiko (19)

私のDAY受賞は、ST(言語聴覚士)という仕事に対する励ましの意味が含まれていると感じます。ICU同窓生にも約30人のSTがいて、さまざまな領域で活躍しています。私にとってICU時代は、キリスト教信仰、尊敬する先生や友人、一生の仕事に出会った大切な時間です。在学生に対して、あらゆることに興味を持ち熱心に勉強してくださいというメッセージを送ります。きっと何か見つかるはずですから。

76 年語学科卒
言語聴覚士。医学博士。東京銀行を経て 1982 年国立障害者リハビリテーションセンター学院卒業。東京都神経科学総合研究所他を経て 1999 年神戸大学医学部助教授 (神経心理学)。2002 年同教授。2008 年大学院保健学研究科教授。2009 年脳梗塞発症。10 ヶ月後に現職復帰。2011 年同大退職。現在同大客員教授。2013 年著書出版。三鷹高次脳機能障害研究所。人間情報学会理事、日本高次脳機能障害学会評議員、日本神経心理学会評議員、日本脳損傷者ケアリングコミュニティ学会、日本リハビリテーション医学会、日本言語聴覚士学会に所属。

ICU同窓会 新会長・副会長の紹介

文＝岡田庄生（本誌）

2014年4月より、ICU同窓会は新しい会長・副会長を迎え、新体制となった。任期は1期2年間。
木越純新会長の挨拶文と、9名の副会長による各部の紹介を掲載する。

18代国際基督教大学同窓会会長

木越 純（27期／ID83）

会長挨拶

本年4月の就任以来、新役員・事務局の皆さんと新しい期のスタートアップに励んで参りました。その間ICUを愛してやまぬ諸先輩が残して下さった、有形無形の財産のありがたみを感じております。また永渕前会長を始め、前期の役員の皆様に、これまでのご奉仕に対して心から御礼申し上げます。

私は、31年前に当時の社会科学科（SS）を卒業し、以来邦銀から米銀へと一貫して金融畑を歩んできました。長らく海外勤務などがあり、同窓会活動に関わる機会はありませんでした。4年前にふとしたきっかけで理事を仰せつかり同窓会に関わるようになり、今般会長職を拝命した次第です。

振り返ればICUを卒業して以来、業界再編や金融危機など厳しい時期もあり、その間迷ったことも苦しい時も少なからずありましたが、曲がりなりにもここまでやってこれましたのは、家族の支えとICUで得た賜物のお陰だとつくづく思っています。またこの4年間同窓会活動を通じて、多くの国内外の支部の皆さんを訪ね、同窓生のみならず在学生の皆さんとのイベントにも参加しました。この間、一期生から在学生まで素晴らしい方々との新鮮な出会いがあり、大いに元気を頂きました。この感謝と喜びを、多くの同窓生の皆さんと分かち合いたいと思います。

同窓会は、同窓生同士の親睦を深める場であると同時に、母校をサポートし、後輩である在校生を応援する組織です。ICUで得た賜物を次世代に伝える、そんな役割があると思っています。私は、今期の同窓会活動を通じて、同窓会をより存在感のある、より求心力のあるものにできればと思っています。

さる2014年5月17日に役員全大会を開催させていただき、多くの新任役員の方々とお会いすることができました。

その際に、私から今期の施策として三つ挙げさせて頂き、ご協力をお願い致しました。

1. 同窓生が集まる場、嬉しいと思えるサービスの提供を、もっともっと企画してゆきたい。
2. 大学にもう一步踏み込んだ協力を行いたい。まずは桜募金活動への協力、更に同窓生の持つネットワーク・ノウハウを活用したサポートを、同窓会チャンネルを活用して行ってゆきたい。
3. 基本的な情報インフラを整備する必要を痛感、IT部会を新設。知見のある方々の協力を得たい。

今期の同窓会は、従来からの大学部、事業部、組織部、募金部、学生部、広報部、財務部、総務部の8つ部会に新たに設けたIT部会を加えた、9つの部会で活動を展開してゆきます。すでに各部会の責任者となる9名の副会長さんの元、理事・評議員からなる部会が組成され、順次活動を始めています。

百聞は一見に如かず。同窓生の皆さんには、ご関心のある活動、興味を持たれたイベントから、まずはご参加いただければと思います。皆さんと一緒に母校を盛り立ててゆきましょう。



写真左から伊藤 航、宮武 久佳、内村 昌幸、岡上 啓太、長谷川 攝、木越 純、富岡 徹郎、池田 伸壹、櫻井 淳二、岡田 庄生

総務部担当副会長

櫻井 淳二（28期／ID84）

総務部はICU同窓会の潤滑油として、理事会と事務局・各部会と事務局との連携強化に努め同窓会活動が円滑に運営されるよう貢献します。

【今年度の重点課題】

1. 理事会・各部門と事務局との連携強化に努める。
2. 事務局業務が抱える課題の解決を行う。
3. 「桜祭り」（総会）開催に向けての準備を行う。

財務部担当副会長

岡上 啓太（52期／ID08）

【ミッション】

1. 適正かつ透明性の高い支出管理、終身会費を中心とした収入源の多様化を推進する。
2. 湯浅細木奨学金の適切な貸与管理・候補学生との面談。

【今年度重点課題】

1. 同窓会基金の運用方針を見直し、内規を整備して時代に沿った運用を行っていきたい。
2. 収入源の多様化を推進するため、各部との連携を積極的に図りたい。

大学部担当副会長

宮武 久佳（大学院1983卒）

【ミッション】

1. 同窓会が大学と意見交換する際の同窓会の窓口です。より良い「大学との対話」を実現したいと考えています。
 2. DAY賞選考
- 【今年度重点課題】
1. ICUの現状を知り、日本の大学「業界」を研究し、同窓生として「あるべきICU像」を模索したい。具体的には、ICUの志願者増のためのヒントを探りたい。
 2. AA会(同窓会と大学の意見交換会)をさらに実のあるものに。
 3. DAY賞のあり方を「大学部として」見直したい。

組織部担当副会長

池田 伸壹（32期／ID88）

今期も「群れよう、集おう、繋がりよう!! きっかけ作りの組織部です」をスローガンに活動します。

「群れないのがICU卒業生」ではありますが、組織部は世界中に広がる同窓生と学生、教職員と教期やセクション、職域、地域、サークルや部活、寮など、一人一人の卒業生が在学中から現在までの子育てに忙しい、仕事が忙しいなど、様々な理由でこれまで同窓会活動とは距離のあった方々に、日本中、世界中の方々と、ITやネットの力も借りて、もっとつながりたい。

学生部担当副会長

伊藤 航（49期／ID05）

ICU同窓会は入学から卒業～墓場までICU生の理想の人生をサポートするための“人脈ライブラリー”。学生部は、その人脈の“金脈”となる在学生を発掘し、在学生に対して活躍する機会と場を提供します!

【今年度重点課題】

1. 潜在的な学生のニーズを捉えた、学生を巻き込んだイベントの企画・充実(ドリコン等)。
2. 就職活動の解禁時期変更に応じた進路・就職支援活動の改善。
3. 在学生を“広告塔”とした、同窓生・高校生・社会に対するICU魅力アップ活動の支援。

IT部担当副会長

内村 昌幸（33期／ID89）

情報技術を活用した会員向けサービスの充実と同窓会業務の最適化をはかります。

1. 会員コミュニケーションサービスの充実(イベント中継、リモート会議、ITサービスの活用)。
2. 大学との情報連携の緊密化・効率化。
3. 事務局OA環境の充実・安全性向上。

事業部担当副会長

富岡 徹郎（26期／ID82）

事業部は、グッズ作成・サービス提供・イベント開催などを通して同窓会活動を活性化します。

1. 同窓生の“Fun(楽しさ)”を生みだす、創造力のあるグッズ作成やサービス提供。
2. ICUのブランド、ICU Loveを高める商品の開発と販売
3. 同窓生が集まれる、都心の同窓生のお店発掘とイベント開催(組織部と連携)

募金部担当副会長

長谷川 攝（24期／ID80）

大学の募金活動に協力する際の同窓会の窓口です。多くの同窓生から募金して頂くことで、大学がICUらしく存在・進化していくお手伝いをします。

1. 桜募金など、ICU献学60周年記念事業への募金を広く呼びかけるネットワークを構築する。
2. 募金の使われ方について大学から情報を得て、フィードバックをする。

献学60周年を迎えたICUはいろんな面で募金を必要としています。ご協力どうぞよろしくお願いします。

広報部担当副会長

岡田 庄生（47期／ID03）

ICUと同窓生の縁結び。卒業したら徐々に縁遠くなるICUですが、同窓生が頑張っている姿や、楽しく暮らしている姿をお伝えすることで、ICUに少しでも興味を持ってもらえれば、と思います。

年2回発行の広報誌「アラムナイニュース」では、ICUの新たな一面を発見するような斬新な切り口で、読み応えのある記事を作ります。WebサイトやFacebookページ等では、同窓生が関係する旬の情報をタイムリーに発信しつつ、会話が生まれるようなきっかけ作りをしています。

役員全体会、アメリカ公使公邸にて開催さる

文・写真=樺島榮一郎(本誌)

公使は大使に次ぐ、アメリカ大使館ナンバー2のポジションだ。
公使とICUとの意外な結びつきから、意外な場所で役員全体会が開かれた。



左／公邸外観。こいのぼりは日本的なものとして、時期に関係なく飾られているようだ。右上／開始前の庭での歓談。右下／記念品のICUソングのオルゴールを持つ丸本さんとトン公使、木越会長。

役員全体会は、会長、副会長、理事、評議員の改選に伴い、任期2年のキックオフを確認して意識を高めるとともに、理事および評議員の9つの部への所属を決めるために行われるものである。今回は、ICUと縁の深いカート・W・トン (Kurt W. Tong) アメリカ首席公使(当時) と丸本美加さん (G1987) ご夫妻のご厚意により、麻布にある公使公邸で、2014年5月17日(土) の18時30分より開催された。

公邸は、1936年にブリジストンの創業者、石橋正二郎の邸宅として建てられた、インターナショナル・スタイルのなかなか

趣ある建物だ。庭も素晴らしく、全体会の開始まで、心地よい春の夕暮れのなかで談笑する参加者の姿が見られた。その後、元NHKアナウンサーの伊藤航さん (49 ID05) の司会で、会がスタート。

まず、トン公使と丸本さんの挨拶があり、トン公使の「One Year Irregular」としてのICUとの関わりが語られた(カコミ記事参照)。そして、木越会長より感謝の記念品の贈呈が行われた。続いて、日比谷学長、北城理事長、木越新会長よりあいさつがあった。

次に、新設されたIT部も含めて9つの部

の担当副会長が、部の業務の紹介と部員の勧誘を、短いながらも熱意をもって語った。

その後は、立食パーティとなり、部へのリクルートを行ったり、楽しげに談笑する光景があちこちで見られた。途中、丸本夫人の案内により東京タワーが望める屋上へのツアーもあり、参加者は、素晴らしくも有意義な春の夜を過ごした。このような機会を作ってくださった、ご夫妻にあらためて感謝申し上げたい。後日、理事、評議員は、自身の希望に基づき所属の部を決定した。今後の各部の活動が期待されるところである。

トン公使に聞く、ICUとの結びつき

ICUとの関わりは祖父の代からです。祖父はミッシヨナリーで、フィリピンや台湾で伝道を行いました。United Church Board for World Missionsのニューヨーク本部で働いていたとき、ICU設立に携わったのです。

そのつながりがあったので、大学で体育を教えていた父が1981年のサバティカルの滞在先としてICUを選びました。その時、私も一緒にICUに来たのです。高校を卒業したばかりの18歳で、当時はギャップ・イヤーという言葉がありませんでしたが、9月から翌年の6月までICUキャンパスですごしました。その後、父は、1996年まで、4,5回、ICUに来て教えていました。

私は、午前中は日本語の授業に出て、

午後はスティール先生の日本の歴史の授業や、中国の歴史の授業にでていました。そのあとは、サッカー部とISLで活動しました。学籍はなかったのですが、いい時代でした。

この時がはじめての海外で、当時は日本のなかでICUがどんなに特殊な場所かということを知りませんでしたし、ソフトエントリーでした。友達も多くできました。フジテレビ報道局の局長をされている二関吉郎 (26 ID82) さんとは、3年前、仕事で再会しました。日米学生会議の日本側の委員長だった福谷尚久 (29 ID85) さんとは、D館にバックパック売りますという掲示を出したら、買いたいと言ってきたのが最初です。彼は厳しく交渉してきましたよ(笑)。わた

しはオハイオから来たのですが、彼はそのバックを持ってオハイオに行ったのも不思議な巡り合わせでした。

ICUに来て、人生が変わりました。高校までは生物が好きで、生物を勉強して研究者になろうと思っていましたが、ICUの体験から国際的なことや政治や経済に関心が向くようになりました。帰国後に進学したプリンストン大学では、政治・経済の勉強をしましたし、日本語の勉強も続け、中国語も始めました。卒業後は、台湾に1年留学して、ボストン・コンサルティング・グループの東京事務所に入りました。その後、国務省に入り、フィリピン、ワシントン、東京、北京、ソウル、ワシントンを経て、現在の東京にいます。妻とは、日米学生会



議で知り合って、フィリピンにいる時に結婚しました(同窓会ホームページ「今を輝く同窓生」に詳しい記述あり)。今回、すこしは恩返しできて良かったかなと思っています。

From the University

President's Message

大学のページ

2013年4月1日、本学はウェブ上でシラバス、授業のビデオなど、実際のコースを無償で公開する画期的な取り組み、ICU OpenCourseWare (OCW) を開設しました。それから1年が経過し、現在では100を超えるコンテンツが公開されています。今回は、本学OCWの今後の展望について、OCWの提唱者であり、マルチメディア教育の第一人者である宮川繁教授（ICU献学60周年記念教授、マサチューセッツ工科大学（MIT）言語学教授、CLA19、ID75）と日比谷潤子学長の対談をお届けします。



OCW成功のカギは、大学のミッションとの一致

日比谷：本学では、2013年4月1日にOCWを公開しましたが、その公開日に、MITにおけるOCW提唱者のお一人で、本学の同窓生でもある宮川先生を献学60周年記念教授としてお迎えできたことを、嬉しく思っています。宮川先生には、本学のOCW顧問も引き受けていただいています。先生は本学のOCWの現状について、どのように見ていらっしゃいますか。

宮川：OCWが、母校にも導入されたことを嬉しく思っています。公開から1年が過ぎ、現在約50科目、その他の特別講義などを含めると100を超えるコンテンツが閲覧可能となっているのは、本当に素晴らしい。歴史の授業もあれば、音楽、数学、サイエンスもあり、リベラルアーツ・カレッジであるICUの多様性が表れていると思っています。

日比谷：最近では、多くの日本の大学も、OCWやMOOCs（Massive Open Online Courses：ムークス）などに取り組んでいますが、先生から見て本学のOCWの特長はどのような点でしょうか。

宮川：最近では、edXやCourseraなど、MOOCsで修了証を発行する多くのOnline Educationが運営されています。これは一つの流れですが、このような修了証を発行するものとOCWでは、公開できるコース数に違いがあります。複数の大学が素晴らしいコースをMOOCsで提供していますが、膨大な労力が必要となり、提供できるコース数は、多くても一桁ではないでしょ

うか。一方、OCWは大学で開講している全てのコースを公開することも可能で、MITでは全2000コースを既に公開しており、OCWを見れば、どんな大学であるのか、特長や全体像を掴むことも可能です。

ICUはリベラルアーツ・カレッジであることが特長で、それは日本の中だけではなく世界の中でも非常に大きな特長です。少人数制かつ教育熱心な教員の姿、リベラルアーツならではの、多様な視点をうまく捉えたOCWであることがICUの違いであり、目指す方向だと思っています。

また、OCWが成功している世界の大学には、ある共通点があります。それは大学のミッションとOCWの目的が一致していることです。MITのミッションは、「新しい知識を作る、保存する、共有する」です。そして、その新しい知識を世界の大きな問題に当てはめています。今までは、このミッションを基礎研究を通して実現してきましたが、今ではOCWでも実現しています。一方、ICUにもOCWに適したミッションがあります。入学式で新入生一人ひとりが世界人権宣言に則った学生生活を送るという「学生宣誓」に署名しますが、世界人権宣言の第26条にある「すべての人は教育を受ける権利を有する」は、まさにOCWの理念そのものです。ですから、ICUのミッションをOCWを通して表現できれば、必ず成功すると思います。

日比谷：OCWが教育の改善に果たす役割についてはどのようにお考えですか。

宮川：MITの例ですが、500コースを公開した頃に、教員にOCWの利用実態を尋ねたところ、約8割から「見ている」との回

答を得ました。特に顕著だったのは、他の教員の授業を見ていることでした。これは非常に画期的な事です。普段、教員は他の教員の授業を見る機会が少なく、自身の教育モデルは、自分が学んだ教員になりがちです。しかし、OCWによって、他の教員を参考に、自身の教え方を改善することも可能になったのです。

日比谷：他の先生の授業を見学するのはスケジュール等の都合により時間が合わず難しいという現実がありますが、OCWであれば時間の許すときに見ることができます。またこれは、学生にとっても同じで、復習や次学期の履修を考える際の参考にでき、さまざまな活用が可能となります。

宮川：そのとおりです。MITの電子工学の授業では、OCWを利用し、反転授業が導入された例もあります。レクチャー部分を事前に公開し、教室では少人数のインタラク션을重視して、ディスカッションを中心に進める。まさに教育の改善にOCWが貢献した例です。以前、MITで学生と教員に「教育で何を重視しているのか」を問うアンケートを実施したことがあります。回答は「チームワーク」で、このチームワークを養うには、学生同士のインタラクシオンが必要不可欠です。OCWを通した反転授業がより多く導入されれば、ますます教育の質が向上するはずです。

今後のOCWの可能性

宮川：最近、“Open Education”という言葉をよく聞きますが、自学の学生を教育するだけでなく、使用している教材で、世界中の誰もが学べるようにする、これは全て

の大学が有すべき一つのミッションだと思います。MOOCsの例ですが、2012年にMITの電子工学・電子回路のコースを公開したところ、16万人の人たちが登録し、そのうち2万人が修了して、350人程が満点を取得しました。その一人がモンゴルの16歳の青年で、昨年の秋に入学し、今はMITの1年生です。

日比谷：日本の新聞にも取り上げられていました。ウランバートルで、MOOCsを通して一生懸命に電子工学を学び、満点を取り、周囲の勧めもあってMITに入学したそうですが、MOOCsがなければ、彼はMITに入学しなかったのではないのでしょうか？

宮川：そう思います。MITは非常に素晴らしい機会を得ることができました。

日比谷：私もその通りだと思います。この例のように、考えもしなかった結びつきで、非常に優れた人が入学することは、大学にとって非常に価値ある事です。本学でも、我々の魅力を表現する科目群をバランス良く公開し、未来の学生との素晴らしい機会に巡り会えると思っております。

宮川：OCWの立ち上げ初期に、「OCWが成功したと判断ができるときはどのような時か」と、よく尋ねられ、「自然と授業が公開されるようになることではないか」と、回答しましたが、ICUはまさにこの状態に近付いていると思います。

複数の分野を学ぶ中で、物事を学ぶ姿勢や多角的な視点を身に付ける、これがまさにリベラルアーツです。この特長をうまく捉えて、OCWで表現すれば、自ずとそのような素晴らしい機会にも巡り会えると思います。

On April 1, 2013, ICU launched OpenCourseWare (OCW), offering its syllabi and course videos on the web free of charge. A year after its inception, OCW content now exceeds 100. For this issue, President Junko Hibiya discussed the present and future of OCW with ICU 60th Anniversary Professor Shigeru Miyagawa, an ICU alumnus (CLA19, ID75) and professor of linguistics at MIT. As a leading expert in multimedia education, he was one of the original faculty members to recommend the creation of OCW at MIT.

Success of the OCW will Depend on Consistency with the University's Mission

Hibiya : It was a great honor to welcome MIT Professor Miyagawa to ICU as 60th Anniversary Professor on the day we launched OCW: April 1, 2013. We also asked you to be an advisor to the OCW team at ICU. What is your opinion of the present state of OCW at ICU?

Miyagawa : I am very happy that my alma mater has started offering OCW. A year has passed since the project started, and it is wonderful that the university offers approximately 50 courses online. OCW content now exceeds 100 if you include special lectures. You have history, music, mathematics, and science, which shows the diversity of the courses in a liberal arts college.

Hibiya : Recently, many Japanese universities are offering OCW and MOOCs (Massive Open Online Courses) , but how would you describe the OCW at ICU?

Miyagawa : Recently, many universities offer online education with MOOCs such through edX ,Coursera, and other organizations that offer formal certification on completion. Many universities offer good courses through MOOCs, but since it is labor intensive, they can only offer a few courses at most. On the other hand, with OCW, universities can offer all their courses. At MIT, virtually all of our 2000+ course materials are available online. By looking at OCW, you get a fairly good overview of the university and its strengths. The signature feature of ICU in Japan and the world is its liberal arts education. Its OCW reflects the devoted faculty teaching diverse courses in small classes.

Universities with successful OCW have one thing in common: their mission and the objective of the OCW match. MIT is committed to “generating, disseminating, and preserving knowledge, and in working with others to bring this knowledge to bear on the world’s challenges.” This has been achieved through basic research, but now we also have OCW as a means to fulfill our mission. ICU has a mission that suits OCW. At the matriculation ceremony at ICU, students sign a pledge to honor the Universal Declaration of Human

Rights, whose Article 26 is “Everyone has the right to education.” This is just what OCW was designed for. Therefore ICU’s OCW will succeed if it can express its mission through OCW.

Hibiya : How will OCW improve education?

Miyagawa : At MIT, we asked faculty if they made use of OCW when we got to offering about 500 courses online. Approximately 80% said they were making use of the OCW, especially by watching other faculty’s courses. This is a landmark in education. Before OCW, your teaching model tended to be based on how you were taught as a student. Now anyone can look at how other professors organize and teach classes on the web, which allows you to improve the way you teach.

Hibiya : With OCW, you can watch other professors teach in your free time. Students also can use it to review classwork or as reference when they plan their course schedules for the next term. They can use it in a variety of ways.

Miyagawa : That’s right. At MIT, an electrical engineering course uses OCW for flipped teaching. Students watch lectures to prepare for classes online. In the classroom, the faculty emphasizes interpersonal interaction or discussion among students in small numbers. This is an example of how OCW contributed to improvement in education. At MIT, we did a survey on what students and faculty thought was important in education and the answer was teamwork. This can only be cultivated through interaction among students. If we adopt more flipped teaching with OCW, the quality of education will be enhanced further.

Future Prospects for OCW

Miyagawa : Recently, “Open Education” is a theme we often talk about. It is a mission for universities not only to teach their own students but also offer the course material online to people around the world. An example at MIT in 2012 was the MOOCs Circuits and Electronics course, for which one hundred sixty thousand people registered. Twenty thousand completed the course, 350 with perfect scores. One of them was a 16-year-old student from Mongolia,

who entered MIT last autumn and is now a freshman at the Institute.

Hibiya : I read that in a Japanese newspaper. He studied electronics in Ulan Bator with MOOCs, scored a 100% and entered MIT, following advice from those around him. If it were not for MOOCs, he would not have entered MIT.

Miyagawa : I believe so. MIT was blessed with a wonderful opportunity.

Hibiya : I think so, too. This example epitomizes the splendid outreach of OCW that connects excellent students with universities, creating a wonderful opportunity for universities to attract a diverse student body. We

should be offering a well-balanced set of courses that opens windows for encounters with prospective students.

Miyagawa : In the initial days of OCW, many people asked me when I would consider OCW to be a success. My answer was when courses were naturally being offered online. ICU is almost there.

Liberal arts education enables students to cultivate a learning attitude and multidimensional perspective by studying across academic fields. If ICU showcases its strength in the OCW, the university can look forward to splendid encounters with future students.

10/25
ICU祭

ICU 60th Anniversary 献学60周年記念事業

Homecoming 2014



シンポジウム
世界平和実現の道筋
ー私たち卒業生は今何をなすべきなのかー

この大学は何故「国際的」でなければならないのか。私たちは何故「キリスト教主義」を貫き、「リベラルアーツ」を標榜するのか。ICUの理想を追求することの尊さを、みずからもう一度確認するための、ホームカミング・シンポジウムそして、対話。

パネリスト
太田啓子 弁護士（43期）
橋本和典 アーツ・サイエンス学科准教授（心理学、40期）

モデレーター
伊東辰彦 教養学部長（22期）

日時
2014年10月25日（土）シンポジウム：13：30～15：00（開場：13：00）
シンポジウム終了後に1時間、テーマをめぐる懇話会をおこないます。

会場
東ヶ崎潔記念ダイアログハウス2階 国際会議室

19

From The Alumni House

アラムナイハウスから

2期会報告

文：松本吉見（2）



昨年10月24日昼、「2期生会」を新宿のレストランで開催しました。出席者は28名。全員Around 80ですが、写真でご覧のとおり、まだまだ元気に活躍しておられます。全員から頂いたスピーチもそれぞれ大変面白く、とても楽しいひと時となりました。

今年は入学60周年に当たります。10月23日（木）に予定する次回会合の盛会を期して散会しました。

「ICUのアートなOB紹介」からのお知らせと証言募集

文：村田広平（24 ID80）

ICU祭の開催と、ICU献学60周年に合わせ、10月下旬に「ICUのアートなOB紹介」(<http://temporary-icuart.jimdo.com> あるいは、アートなOB、でご検索ください)を更新します。掲載予定の特集は「湯浅八郎とICU展」(大学歴史資料室と、湯浅八郎記念館共催)です。さらに10月特集とその次の12月特集に載せる、湯浅八郎氏の思い出(時期を問わず)と創立初期のICUのこと(1950年代)、そして激動期のICUに関する記憶(1960年代)など、を募集中です。200から400字程度で、同サイトの連絡先にお寄せください。本欄読者あるいはその御友人の方などからのご投稿をお待ちしています。

第20回

ICU心理臨床家の集い報告

文：石田絵里（G2007）



2014年2月16日（日）、アラムナイハウスにて『第20回ICU心理臨床家の集い』が開催されました。ICUの卒業生・修了生で、心理臨床に携わっているメンバーの相互研鑽と親睦をはかるネットワークとして、毎年『集い』の場を持っています。

今回は、前々日の大雪のため一面の雪景色となったキャンパス内に、卒業年次1959年から、院在籍（開催時）まで幅広く33名もが集まりました。今回の『集い』の特徴としては、世話人の苔米地憲昭さん（G1972）の熱意ある声かけに応じ、13名もの新会員が参加したこと、それにより卒業年次の新しいメンバーが多く加わり『集い』に新たな交流が生まれ、新しい風が吹き抜けたことといえるでしょう。

久しぶりに会う仲間との、おいしいフレンチと手作りケーキを立食しながらの歓談後、栗

原和彦さん（21 ID77 G1979）から「個人開業から心理臨床実践を考える」というテーマで話題提供があり、自分（という道具）を使う心理臨床という仕事、専門家としての孤独とその社会の中でのあり方について、長年の経験と共に語られました。個人開業を軸にしながらも、心理臨床家全体に通じる専門性のテーマに、参加者それぞれが刺激され、それぞれの場における自分の臨床をふり返る機会となり、活発なコメントや質疑応答がかわされました。その後は、医療、教育、大学、福祉、産業と、それぞれの分野にわかれての交流が行われ、最後に今回初参加のメンバーが次回の世話人となり、歴史のつながりを感じる幕切れとなりました。

年代が違い、性別が違い、ICU歴が違っても、「ICUで学んだ」ということが色濃く表れ、「ICU」と「心理臨床」という共通項だけで、こんなにも居心地良く話せる空間がつくられるのだ、ということ強く感じた時間でした。

次回は、2015年2,3月頃にICUで開催の予定です。心理領域で働いている卒業生・修了生のみならず、しばらくICUにご無沙汰している方も、ぜひ来春の『ICU心理臨床家の集い』にいらしてこの空間を体感してください。

（お問い合わせ：ICU心理臨床家の集い事務局 icutsudo@yahoo.co.jp / 0422-33-3632）

デンマーク支部会報告

文：ヘレンハルメ美穂（43 ID99）



1月25日（土）コペンハーゲン駅にほど近い四川料理のレストランでデンマーク支部の新年会を開きました。寒さの厳しい夜でしたが9人が集まり、なかなか本格的な激辛油鍋(?)などをつつきながらの歓談となりました。

さまざまな分野で活躍されている先輩方との、刺激的で楽しいひとときでした。

ICU同窓会パリ支部

2014 年初夏の懇親会の報告

文：共同幹事および準備委員一同



陽が照ればけっこう暑いのですが曇ると肌寒いぐらいな涼しい日々が続いています。

学生や教職の方には学年末考査もほぼ終わり長い夏のバカンスの前でもある6月29日（日）のお昼に14名が集まりました。

ここは17世紀の王立植物園をもとに古い歴史とともに自然史博物館・大温室・動物園などが加えられたパリのカルチエラタン地域の憩いと思案の場所です。そのなかにかつては大きな

鯨の骨格を展示した「鯨館」が素敵なレストランになりました。

上記の写真のように紅一点ならぬ黒四点が美女に囲まれた楽しい懇親会でした。

第1回ルクセンブルクの集い

文：ボール静（42 ID98）



2013年11月15日、ヨーロッパの小国ルクセンブルクにて初の同窓会が開かれました。きっかけは同じ職場に小島Glodt 恵子さん（ID95）、長田唯一さん（ID98）とボール静の3名の同窓生がいることがわかり、まだ他にもいらっしゃるのではと人づてに聞いてみると、ご夫婦で同窓生の竹嶋 康晴さんと竹嶋千穂さん（ID87）を発見。これは一度集まる機会を持たなければということになりました。当日は各自イヤーブックなど在校中の思い出の品を持ち寄り、話に花が咲き、気が付けば夜はすっかり更けてしまっていました。

その後、新たに2名の同窓生が国内にいる情報が入っており、ルクセンブルクの同窓生の輪はますます広がります。ルクセンブルクでの集いにご興味のある方はぜひ同窓会事務局までお問い合わせください。

北カリフォルニア支部会報告

文：藤田春菜（47 ID03）



北カリフォルニア支部ではサンマテオにて、3月15日（日）恒例、年2回の同窓会を開催しました。カラッと晴れた夏日和の中、メキシカン料理でのランチ同窓会となりました。二期生からUCBerkeleyに留学中の現役ICU生まで、広い年代の大人18名、子ども3名が集まりました。

台湾支部会報告

文：Michael Guo（G1989）



2014年度の台湾支部同窓会が3月15日（土）11:30-13:30台北市内のカレー専門店において開催されました。1960年卒業から2010年卒業までの幅広い世代の卒業生と家族を合わせて、合計12名が出席しました。

そのうち、台湾在住の鶴飼 啓さん（37

ID93）、兼田純子さん（53 ID09）、佐藤 峻さん（54 ID10）の新入部員も3名参加し、2005年の初回同窓会以来、日本人参加者が最多でした。久しぶりに日本の方が同席したため、会場に日本語の会話が始終響き渡ったのが今回の特徴です。

新入部員の自己紹介を始め、好評を博したカレー定食を楽しみながら、お互いに台湾の仕事や暮らしぶり、ICUについての昔話等で2時間ほど盛り上がりました。

同窓会の最後に、台南在住の黄 英甫さん（G1973）ご夫婦がわざわざ台南からお持ち下さった珍しい台南名物の凸餅（ポンビアン）を参加者全員に配りました。凸餅の食べ方や経緯に全員が興味深々に耳を傾けました。記念写真の後、お互いが来年の再会を約束しながら別れました。

ICUラグビー、シンガポールに遠征

文：石塚雅彦（7）



ICUラグビー（現役とOB混成）が7月5～6日シンガポールに遠征、地元チームと対戦した。相手は名門シンガポール・クリケットクラブ、フランス人2チーム、そしてシンガポール・ジャパニーズの全部で四つ。南国の暑さの中で善戦したものの結果はいまひとつだったが、選手の同伴家族、応援に駆けつけてきた地元駐在や出張中の同窓生を含めると50人になり、意気大いに上がった。海外遠征はグアム（2008、2010）、バンコク（2012）に続き4回目。創部55年目の今年、また新しい歴史を刻んだ。一行にはこの春入学したばかりの女子マネジャーなど若い人たちもいて、貴重な経験と思い出を胸に帰国した。次の遠征候補地さがしがすでに始まっている。

丸ノ内スタイル「キャリアウーマンに聞いてみる」の開催報告

文：山脇真波（50 ID06）



2014年4月22日（火）に、銀座8丁目にあるICU卒業生のギャラリー・カフェ・バー「Art for Thought」にて、第4回目となる丸ノ内スタイル、「キャリアウーマンに聞いてみる」を開催致しました。

当日のゲストには81年卒業の吉田美紀さんを迎え、仕事やワークライフバランス、彼女のエネルギーの源についてお話をしました。

温かく、洗練されたお店の雰囲気も手伝って、同窓生と吉田さんとの会話は講演後も続き、気が付けば最終電車を気にする時間になっていま

した。本イベントで出来た同窓生の繋がりが、これからも発展し続けることを期待してやみません。

今後も丸ノ内スタイルは、ICUの皆様にワクワクする繋がりの場を提供していきたいと思います。

A_Goods

【限定発売】 ICUロゴ入り泉屋クッキー

敬虔なクリスチャンであった泉夫妻が1920年代にアメリカ人宣教師夫人よりクッキーの作り方を教わり“日本で初めてのクッキー”「泉屋クッキー」が誕生しました。

泉屋創業以来のオリジナルレシピによる正統派クッキーにICUロゴを刻印した「ICUロゴ入り泉屋クッキー」が10月25日、26日のICU祭にて、新同窓会グッズとしてお目見えします。アラムナイラウンジなどで販売しております。お土産にもお勧めです。

ID84卒業30周年リユニオン 2014年11月8日(土) @ICUキャンパス

文：櫻井淳二 (28 ID84)

【リユニオン・パーティー】

13:00～15:00@食堂(ダイアログハウス内)
なお、前後して

【プレ・イベント】 11:00～12:45

①キャンパスツアー ②講義『ICU…この30年そして未来』(by大西直樹先生) ③日本民俗舞踊ワークショップ(bv近藤洋子先生) など
【2次会】

15:30～17:30@アラムナイハウスも予定していますので希望者は自由に参加してください。

■対象：ID84と前後3年位の卒業生とその家族

■会費：6,000円(当日) 中学生以下無料

■お問い合わせ：84icureunion@gmail.comへ
(同窓会HPにも本件について掲載中です)

ICU祭のご案内

文：ICU祭実行委員会 齊藤萌栄(ID17)



「ICU生らしさ…」それは、学生が何かに対してのpassionを持ち、各個人の理想像や将来に向かって突き進んでいく様子にあるのではないだろうか。国際的に認められる銀行マンになりたいと豪語する学生から、“割とガチめなDJ”になりたいと密かに思いを明かす学生まで、夢は様々だが、ほぼ全員と言っていいほど、自分の未来を見据えたうえで現在の活動に取り組んでいるように感じる。そんなICU生らしさを、夢を追い掛ける若々しさと勢いを大切にしたいという思いから今年のICU祭のテーマは「夢限」に決まった。“夢は無限に続く”というコンセプトから生まれたテーマであり、計6候補の中から学生に選出された、“学生に最も訴えかけた”フレーズだ。夢の中の限らない可能性を追いかけ、ICU生たちの「今」を、是非ご覧いただきたい。

ICU Festival 2014

■開催日時：

2012年10月25日(土)、26日(日)
10:00-17:00

同窓会美術部OB会支部が ICU祭にて学生との合同展開催

文：同窓会美術部OB会支部長 岩田岳久 (21 ID77)



10月25日(土)、26日(日)に予定されているICU祭において、美術部OB会支部は学生の大学公認クラブ、アートプロジェクトと合同で

第2回OB・学生合同展示会を開催します。今回は、同展示会が「ICU献学60周年記念事業」に認定されましたので、同事業のテーマである(OBと学生の) Dialogue(対話)をアート作品を通じて実現したいと思います。

今回は2年前に隔年の企画として、掲載の写真の通り本館2階の階段をあがったスペースで実施しましたが、今回も同じ場所です。作品点数を増やして開催する予定です。ぜひとも多くのOBの方に大学を訪れて学生と一緒に作品を見ていただきますようお願いいたします。

寄付者御芳名

山田 礼子 名誉会員

貴重な御寄付を賜り、誠にありがとうございました。

MISSING たずね人

池田 英人 (35 ID91)

深見 淳 (43 ID99)

森田 雄太 (52 ID08)

古川 真宏 (53 ID09)

動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

訃報 Obituary

中島 省吾 名誉教授

橋本 哲一 元教授

平塚 保之 (1)

岩崎 勉 (1)

岩倉 みどり (3)

小川 寿子 (6)

Winans Marion (6)

佐藤 政人 (7)

佐藤 宏秀 (9)

中村 克孝 (11)

和田 史朗 (13)

佐賀 哲男 (15)

浜野 保樹 (19)

小出 幹人 (23 ID79)

宮副 雄一 (43 ID99)

須賀川 君恵 (51 ID07)

心よりお悔やみ申し上げます。

前号の、小林栄智名誉教授のお名前に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

事務局からのお知らせ

★ 広告募集！

本誌では広告を募集しています。フルサイズ6万円、ハーフサイズ3万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を事務局までお問合せください

★ 原稿をお寄せください！

期会、リユニオン等の案内・報告をお寄せください。本誌およびホームページに掲載いたします。

★ ICU 同窓会とは関係のない名簿業者にご注意ください！

「人事新報社」という業者から名簿の申込みの往復はがきが郵送されているようですが、この業者はICUともICU同窓会とも一切関係がございません。個人情報の流出にはくれぐれもご注意ください。

★ 同窓会名簿について

同窓会名簿は2006年に発行されたものが最後となります。まだ在庫がございますので、購入をご希望の方は事務局までお問合せください。

★ 住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際はメール(aaooffice@icualumni.com)またはFAX(0422-33-3320)で、ご一報ください。地方・海外にご転勤の際には支部をご紹介いたします。同窓会事務局までお問合せください。携帯の方はこちらからどうぞ：



★ ご協力をお願いします。

大学の宣伝＝大学への支援という考え方から、同窓生の著作、雑誌インタビューなどには、略歴欄に「国際基督教大学卒業」とお入れいただけますよう、お願い申し上げます。

★ 四季が綺麗なICUキャンパス。足を運ばれた際にはアラムナイハウスへお気軽にお立ち寄りください。

100円にてコーヒー・紅茶をお出ししております。なおラウンジ使用中にはご要望に沿えない場合がございます。

■大学・同窓会に関する情報が満載です。ぜひ一度ご覧ください。

同窓会ホームページ

<http://www.icualumni.com/>

大学ホームページ <http://www.icu.ac.jp/>

JICUF ホームページ <http://www.jicuf.org/>

■ICU 同窓会事務局

〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX：0422-33-3320

Email：aaooffice@icualumni.com

■同窓会広報部 (ALUMNI NEWS 編集部)

Email：kohou@icualumni.com

お孫さまへの『想い』を形にしませんか？

教育資金贈与信託〈愛称：孫への想い〉

「教育資金贈与信託」は、30歳未満のお孫さま等への教育資金として当社へお預け入れいただき、当社はお孫さま等からの払出請求に基づき、教育資金をお支払いする商品です。

- 5,000円からお申し込みいただけます。
- 贈与を受ける方は、30歳未満のお子さま、お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります。

教育資金としてしっかり管理

払い出し前に、三井住友信託銀行が教育資金のお支払いであることを確認します。



贈与される方の『想い』に応えます。

贈与額1,500万円まで非課税

【対象例】



学校等

そのうち学校等以外への
お支払いは500万円まで



学習塾・
そろばん



水泳・
野球



ピアノ・
絵画 等

無料！

管 理 料

払出手数料

お申し込みは…平成27年12月25日まで

お問い合わせ・資料のご請求は

0120-988-494

受付時間

平日9:00～17:00(土・日・祝日および12/31～1/3はご利用いただけません)

孫への想い

検索

お問い合わせの際は「アラムナイニュースを見た」とお伝えください。

その人を信じて、その人に託す。Meet The Trust Bank



三井住友信託銀行

同窓会による同窓生のためのICU祭

文：永淵光恵 (21 ID77)

母校ICUは1953年に献学されたので、今年は61周年にあたるわけだ。人間に例えるのなら去年還暦を向かえ多少身体のうちこちに不具合が生じながらも今まで培ってきた知恵と経験を生かした次のステージを模索中、といったところか。2011年から5年をかけて展開中の献学60周年記念事業の昨今の動きをみていると、人間の歩みとよく似ていると思う。同窓生としても今のICUをもう一度よく知り、現状を知ることによってより良くこれからのICUの発展に同窓生として寄与したいものだ。

そのよく知る‘機会’が来る10月25日(土)、26日(日)にやってくる。ICU祭が例年より1週間早く三鷹キャンパスで開催されるからだ。

ICU祭での同窓会主催イベント内容のご紹介

ここでは計画中的のものも含めた一部のプログラムを紹介する。詳細は9月初旬にICU Alumni Homepage に掲載するので、是非HPをチェックしていただきたい。

⇒ <http://www.icualumni.com>

JICUF Homecoming in 2014

まずは米国からのお客様団体をご紹介したい。JICUF (Japan ICU Foundation) Homecoming が10/25に予定されている。ご訪問するメンバーが分かり次第、ゆかりの同窓会役員にはご連絡予定ではあるが、来日メンバーの希望に応じて同期の皆様にも個別Reunionのお誘いがかかるかも。おもてなしの心を発揮しながら、第三の目を通して共に今のICUをとくとご堪能いただきたい。

DAY賞受賞者による懇談会、テーマは「ICU草創のころ。1期生からのメッセージ」

今年で9回を数えたDAY (Distinguished Alumni of the Year) 賞表彰式。既に67名もの素晴らしい業績を挙げられた同窓生が同窓会から顕彰されている。表彰式では毎回感銘をうける短いスピーチをいただくのだが、なにしろお一人3分程度。これでは受賞者側も観衆側にも言い足りない、聞き足りない感が残る。これを解消し、偉大な同窓生の語りから今までのICUの歩みを共に振り返り、ICUの無形資産を検証したい。皆さんよくしゃべるICU古来の伝統を重んじ、Communicationが取れる範囲で

の実施を考えているので、場所は60名程度収容のアラムナイハウス2階ラウンジ、開催予定時間は10/26 13:00-15:00。

ゲストスピーカーとして、1期生の丹波望先生(牧師、学校法人のしろ文化学園理事長。今年のDAY賞受賞者)から、ICUの草創のころについてお話をお聞きする。「今のうちに、若い人に伝えておくのが、1期生の務めだと思います。当日、聞きにいらっしゃる方からの素朴な疑問もぜひ、お聞かせください」と丹波先生。丹波先生以外にも、1期生をゲストに迎える予定だ。ゆったりしたアラムナイハウスで、「1つとあって2つとないトーク」に耳を傾けたい。

ICUヒーロー研究会がキャンパスをガイド

今のICUのヒーローがキャンパスを案内してくれる。(合掌) ツアー時間および集合場所(予定)は次の通り、ただし、平和を守るICUヒーローのスケジュールは超過密、救急車と同じように平和を守るための緊急出動もありなので、必ず、前日にはアラムナイHPで彼らの登場スケジュールを確認していただきたい。

■10/25 (土) 12:15 アラムナイハウス前に集合 12:55 ダイアログハウスで解散
■10/26 (日) 10:15 アラムナイハウス前に集合 10:55 ダイアログハウスで解散
■10/26 (日) 12:00 アラムナイハウス前に集合 12:50 アラムナイハウスで解散
■10/26 (日) 15:15 アラムナイハウス玄関前に集合 16:00 つつじサークル付近で解散

今時、‘愛と平和と世界人権宣言’を語るヒーローは希少価値！正にICUならではのヒーローと共に今のキャンパスを巡ってみよう。

ICUヒーロー研究会とは愛と平和と世界人権宣言のためにICUを守り続けているヒーロー「機動礼拝シーベリー」をサポートする団体であり、地域に根ざしたヒーローショーの開催や映画の撮影などをおこなっている。2010年に設立され、当初は旧D館ラウンジに集まって特撮を鑑賞するだけのインドアサークルであったが、ヒーローショーを活動の中心とするようになってからは一変、ICU祭の名物と呼ばれるまでの存在になった。昨年は外部での活動が評価され、ドリコン2013のグランプリを受賞するなどその躍進ぶりは目覚ましい。



(左上) 1期生でDAY賞受賞者の丹波望先生。(右上) 出店するジュメイラのお二人
(下) ヒーロー研究会

もはや欠かすことの出来ない恒例のイベントの中にも一押しが

もしかして何が恒例なのかもご存知でない皆様のために一押し恒例イベントをご紹介します。

まずは、アラムナイハウスでの飲食

だが、今年は渋谷(表参道)のD館との異名をとるジュメイラさんが満を持してのサービス提供！最近の東京地方在住の同窓生の間ではアラムナイハウスを知らなくてもジュメイラを知らない方はいらっしゃらない！といわれるほど多くの同窓生に愛されているジュメイラに無理を強いて母校と同窓会のために出店いただくことに。必見！必食！

本館前の子供(緑日)企画も人気

同窓会役員はイケメン、イケ女揃い。そんな魅力一杯のイケメン役員の中で自他共に子供に愛されるキャラの持ち主による子供緑日が開催される。この難しいミスマッチキャラをもつ人物を見にくるもの今後の人生を考える上で Good Referenceになること請け合い。

未来のICU生が緑日を気に入ったら、ファミリーでアラムナイハウスへ！アラムナイハウスでは旧ICU生もゆったりできること間違いなし。アラムナイハウスの2階からのんびりICUキャ

ンパスを展望するのも一興かと。

ここではICU GoodsもICUワイン、日本酒ばか山も入手できる。いずれも買って損はないものばかり。掘り出し物にも出会える。(例：通常1万円のスカーフ。ICU同窓会ロゴを入れたら、さあ、幾ら？正解は行った方のみが知ること。)

姿勢チェック&体験施術！

三鷹にカイロプラクティック院を開業している佃さんは正真正銘のICU卒業生。

佃さんはICU在学中よりカイロプラクティックの道に進まれ、大崎で開院している奥様と共に日本のカイロプラクティックの普及に尽力中。

そんな佃さんご夫妻に、ご自分の疲れた姿勢をチェックし、体験治療をしてもらおう。

ピーター・F・ドラッガーも言っている、私たちは何処からきてそして何者なのか？どこに行こうとしているのか、と。丁度還暦を迎えたICUと共に、私たちは何処からきて何者になってそして何処に行こうとしているかをICUに関わる凡そ全てのentityが集うICU祭にきて楽しみながらもちょっとだけ考えてみようではないか？

腰痛、頭痛、姿勢を改善させて、更にICUに貢献する方法のご案内

私、佃 隆は、ICU在学中に現在の妻が院長を務める品川のカイロプラクティック院に通院し、長年の猫背や腰痛、肩こりが解消し、学業、サークル活動、海外旅行を楽しむことができました。進路を考えた大学3年生の時に、みなさまの人生を豊かにするお手伝いができることを確信し、カイロプラクティックの勉強を始め、大学4年生の時に三鷹で開業し、今日に至ります。ICUへの感謝の気持ちを込めて、ICU関係者(ご家族含む)の初診来院の方がいらした場合は、初回料金7,000円の内1,000円分をICU同窓会に寄付をさせていただいております。体の調子を良くし、仕事に、学業に、子育てに、スポーツに楽しみ、当院からICUへの寄付を通じて貢献できれば幸いです。



健康雑誌やネットで、佃隆考案のセルフケアが8ページ特集



小冊子ご希望の方は、メール、お電話でお問い合わせください。



ICU祭11年ボランティア参加。収益金は全て同窓会に寄付されています。

ファミリーカイロプラクティック 三鷹院&品川院



院長 佃 隆 ICU 4 4 期 (#00) 国際関係学科卒業
オーストラリア公立マードック大学健康科学学部
カイロプラクティック学科卒業
健康科学士(カイロプラクティック)
開院時間：火・木・金14時～17時、18時～20時30分
土(月2回)：15時30分～16時30分

<http://mitaka-chiro.com/icu>



院長 佃 美香
オーストラリア公立マードック大学健康科学学部
カイロプラクティック学科卒業
健康科学士(カイロプラクティック)
開院時間：月・水・金10時～12時30分、14時～16時
土(月2回)：10時～12時30分、14時～16時

<http://mitaka-chiro.com/mika>

*初回初回：7,000円(検査・カウンセリング) *2回目以降施術：5,000円

STAFF

EDITOR IN CHIEF
岡田 庄生

EDITORS
樺島榮一郎 Kabashima, Eiichiro (37 ID93 G1997)
野仲裕子 Nonaka, Yuko (48 ID04)
栗山のぞみ Kuriyama, Nozomi (34 ID90)
赤松弥生 Akamatsu, Yayoi (39 ID95)
石井雅仁 ISHII, Masato (30 ID86)
森川幹人 Morikawa, Mikito (47 ID03)
小林智世 Kobayashi, Tomoyo (52 ID08)

PHOTOGRAPHERS
一之瀬ちひろ Ichinose, Chihiro (42 ID98)

ART DIRECTOR
佐野久美子 Sano,Kumiko (44 ID00)

PRINTING DIRECTOR
杉浦健一 Sugiura, Kenichi (小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR
谷 摂子 Tani, Setsuko (33 ID89)

PUBLISHER
木越 純 Kigoshi, Jun (27 ID83)

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみなさまのために制作しているものです。今後の制作の参考にしますので、ご意見・ご感想、企画や人物の紹介等がある方は、メールにてお気軽に事務局までお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をANに生かしてみませんか？企画、取材、執筆、撮影、編集進行等を一緒にさせて頂ける方を大募集中です。もちろん未経験でも可。最初は一緒に取材などを行いながら編集のプロから直接技術を学べますし、3年ぐらいやれば、一通り編集の基本が身に付きます。もちろん、現役の学生さんも大歓迎です。興味のある方は、同窓会事務局へメールでご連絡ください。

aaoffice@icualumni.com

速報! 同窓会福利厚生
プログラム開始!

この度、同窓会では、終身会費を払っている同窓生のみなさまにさらなるベネフィットをもたらすべく、新しい福利厚生プログラムを始めます。株式会社イーウェルによるWELBOXというサービスで、大手企業や他大同窓会での採用実績があります。会員制リゾートホテル・ハーベストが利用できるほか、映画やディズニーリゾートの割引など、多様な優待プログラムが準備されており、同窓生本人だけでなく、兄弟や子ども、孫、祖父母まで利用することができます (2親等以内の家族)。
詳しくは、同封のパンフレットをご一読のうえ、ぜひ積極的に活用ください。



ICU同窓会 公式Facebookの立ち上げ!

これまで、ICU同窓会の広報ツールとして、年に2回の会報誌「アラムナイニュース」と、同窓会WEBサイト (http://www.icualumni.com/) を通じて情報提供を行ってきたが、これまで以上にタイムリーな情報提供を行うため、新たにICU同窓会公式Facebookページを立ち上げました。同窓生同士の懇親の輪がさらに広がるような企画も検討中です。Facebookに登録している人は、ぜひページを訪れて「いいね！」を押してください。
このICU同窓会Facebookページでは、評議員会等の同窓会の活動はもちろんの事、ICUのニュースや卒業生の活躍など、世の中のICU関連ニュースを同窓会広報部のメン

バーが発見した情報も投稿していく予定です。また、季節の時々のカンパスの様子をアラムナイハウスの同窓会事務局員が写真で投稿するなど、ICUの今を感じる記事も発信します。投稿にはコメントもつけられるので、同窓生同士の会話も生まれるのではないのでしょうか。
また、管理者である同窓会広報部メンバーだけでなく、一般の同窓生でもページにメッセージを投稿できるので、同窓生が参加可能なリユニオン等の情報があれば、ぜひ活用して下さい。
なお、Facebookに会員登録していない人も、書き込みは出来ませんが情報を見る事は可能です。

<https://www.facebook.com/icualumniassociation>

